

第3次富良野生活圈一般廃棄物（ごみ） 広域分担処理基本計画

（富良野市・上富良野町・中富良野町・南富良野町・占冠村）

令和5年2月

富良野生活圈一般廃棄物広域分担処理検討協議会

目次

1	第三次広域分担処理基本計画	1
1.1	計画策定の趣旨	1
1.2	計画期間	2
1.3	関係市町村の概況	2
2	関係市町村のごみ処理の現状	7
2.1	関係市町村のごみ処理フロー	7
2.2	関係市町村のごみ排出量の実績	12
2.3	関係市町村のごみ分別区分	23
2.4	収集運搬	24
2.5	中間処理	27
2.6	最終処分	36
2.7	ごみ処理経費	39
2.8	関係市町村におけるごみの排出抑制・減量化の取組	44
2.9	ごみ処理関連法令等の動向	46
2.10	ごみ処理における課題	52
3	広域分担処理の取組	54
3.1	広域分担処理の設置状況	54
3.2	広域分担処理施設の概要	54
3.3	広域分担処理の実績	58
3.4	広域分担処理に係る取組状況	61
4	ごみ排出量の見込み	62
4.1	将来人口の推計	62
4.2	ごみ原単位の設定	63
4.3	ごみ排出量の推計	64
4.4	目標年次における関係市町村のごみ処理フロー	70
4.5	広域分担処理量の見込み	75
5	広域分担処理計画	79
5.1	基本方針	79
5.2	各種施策の内容	80
5.3	ごみ処理施設・最終処分場の状況と今後の展望	81
5.4	計画スケジュール	82

1 第三次広域分担処理基本計画

1.1 計画策定の趣旨

富良野生活圏（以下「本圏域」といいます。）は、北海道が策定した「ごみ処理の広域化計画」に基づき、圏域5市町村（富良野市・上富良野町・中富良野町・南富良野町・占冠村）による富良野生活圏一般廃棄物広域分担処理検討協議会を設置し、平成11年3月に「富良野生活圏一般廃棄物（ごみ）広域分担処理基本計画」を策定するとともに、ごみ排出抑制と資源化等の推進、ダイオキシン類の削減、広域処理体系の整備、広域処理施設の整備を基本方針に廃棄物の広域処理へ向けて適切な役割分担と関係市町村の連携・協力のもと廃棄物循環型社会の構築を目指し、様々な取組みを進めてまいりました。

本圏域では、1市町村1施設を基本に、し尿・浄化槽汚泥及び生ごみの処理を行う富良野広域連合環境衛生センター（富良野市）、上富良野町クリーンセンターにおける粗大ごみ・衛生用品の広域分担処理（上富良野町）、プラスチック類・ペットボトル・空きびんの資源化処理を行う富良野生活圏資源回収センター（中富良野町）、動物死体焼却施設（南富良野町）、一般廃棄物最終処分場の広域利用（占冠村）といったごみ処理施設の共同整備と各市町村の有する施設の共同利用による広域処理を進めてきました。その後、施設の老朽化や占冠村最終処分場の残余容量の逼迫などの課題に対応するため、平成25年3月に「第二次富良野生活圏一般廃棄物（ごみ）広域分担処理基本計画」（以下「現計画」といいます。）を策定し、ごみの排出抑制とリサイクルのさらなる推進とごみ焼却量及び最終処分量の抑制を基本方針とし、ごみ処理施設の効率的な運営、新たな資源化の取組みの基本的な方向性について定めました。

このたび、現計画の策定から10年が経過し、目標年次を迎えたことから、廃棄物処理を取り巻く情勢に対応するため、令和5年度を初年度とする「第三次富良野生活圏一般廃棄物（ごみ）広域分担処理基本計画」（以下「本計画」といいます。）を策定します。

本計画は、各市町村のごみ処理の状況、広域分担処理の状況を整理しながら本圏域における現在のごみ処理の課題を把握し、廃棄物処理に係る国や北海道の動向、社会情勢の変化を踏まえ、「循環型社会」の構築に向けた今後のごみ処理の展望・方針等を明らかにするものです。

本圏域の豊かな自然環境を守り、環境負荷を低減した持続可能な社会を目指すため、関係市町村が連携・協力しながら、本計画の実現に向け取組んでまいります。

1.2 計画期間

本計画の期間は、令和5年度から令和14年度までの10年間とします。また、令和9年度を中間目標年次とします。

社会動向の変化や法制度の改定などといった計画策定の前提となっている諸条件に大きな変動があった場合は、必要に応じて見直しを行います。

表 1-1 計画期間

年数		1	2	3	4	5	6	7	8	9	10
年度	R4	R5	R6	R7	R8	R9	R10	R11	R12	R13	R14
内容	計画策定年次	→				中間目標年次	→				目標年次

1.3 関係市町村の概況

1) 地勢概要

本圏域は、富良野市、上富良野町、中富良野町、南富良野町、占冠村の1市3町1村で構成され、北海道のほぼ中央に位置しています。管内の総面積は、2,184km²となっています。

地勢は、東に大雪山国立公園の十勝岳連峰、西に富良野芦別道立自然公園の夕張山系が並び、この2つの山脈に挟まれるように富良野盆地が形成されており、その中を石狩川水系空知川や富良野川が貫流しています。また、夕張山系から日高山脈に至る南部地域では、太平洋に注ぐ沙流川水系など風光明媚な自然環境を有しています。

気候は、気温の日較差、年較差が大きく、夏の最高気温は30度を超え、冬の最低気温は-30度近くまで下がり、国の特別豪雪地帯（富良野市、南富良野町、占冠村）、豪雪地帯（上富良野町、中富良野町）に指定されています。

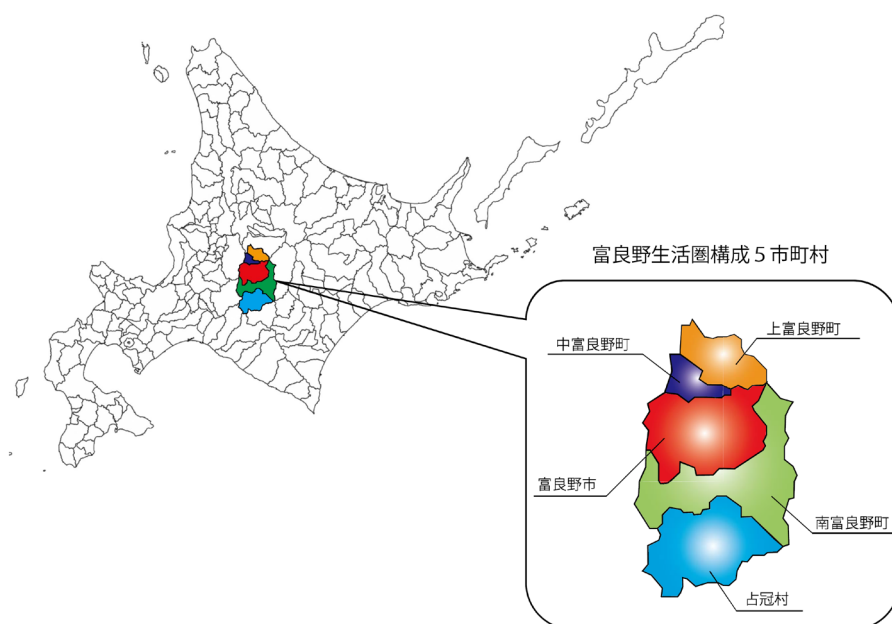


図 1-1 富良野生活圏構成5市町村

2) 人口

令和2年国勢調査における本圏域内の総人口は、39,894人です。

また、本圏域における65歳以上の老年人口の割合は33.5%と、全国の高齢化率である28.9%（「令和4年度版高齢化社会白書」より）を上回っており、高齢化が進んでいます。一方、15歳未満の幼年人口の割合は10.9%となっており、減少傾向にあります。

表 1-2 富良野生活圏5市町村の年齢構成別人口

単位：人

市町村	総数	年齢構成別人口		
		0～14歳	15～64歳	65歳以上
富良野市	21,131	2,211 10.5%	11,512 54.9%	7,255 34.6%
上富良野町	10,348	1,195 11.7%	5,741 50.9%	3,314 36.6%
中富良野町	4,733	594 12.6%	2,406 50.9%	1,731 36.6%
南富良野町	2,376	250 10.5%	1,355 57.1%	766 32.3%
占冠村	1,306	100 8.0%	847 67.7%	305 24.4%
合計	39,894	4,350 10.9%	21,861 54.8%	13,371 33.5%

※令和2年国勢調査より作成

3) 産業

本圏域は、農業と観光が基幹産業となっており、特に農業は北海道の中核的な農業地域として重要な役割を担っています。主な農業形態として、富良野盆地の平坦部では、空知川水系の豊富な水量を利用した水稻生産、周辺の高台では野菜を中心とした畑作地帯を形成するとともに、酪農や畜産、ワインや野菜ジュース、山菜などの農産加工も行われています。

農業粗生産額は、本圏域全体で368億円（令和2年度市町村別農業産出額）となっており、そのうち野菜が197億円と最も多くなっています。

令和2年国勢調査における本圏域内の産業別就業者数を表1-3に示します。

富良野市と中富良野町では農業、上富良野町では公務、南富良野町では医療・福祉、占冠村では宿泊業・飲食サービス業が最も多くなっています。

表 1-3 産業別就業者数

区分	富良野市		上富良野町		中富良野町		南富良野町		占冠村	
	人口（人）	比率	人口（人）	比率	人口（人）	比率	人口（人）	比率	人口（人）	比率
農業	2,145	20%	936	17%	957	39%	209	16%	52	6%
林業	42	0%	29	1%	10	0%	55	4%	17	2%
漁業	0	0%	1	0%	0	0%	0	0%	0	0%
第1次産業計	2,187	20%	966	17%	967	39%	264	21%	69	8%
鉱業、採石業、砂利採取業	15	0%	1	0%	2	0%	35	3%	0	0%
建設業	755	7%	275	5%	127	5%	54	4%	36	4%
製造業	431	4%	302	5%	87	4%	119	9%	29	3%
第2次産業計	1,201	11%	578	10%	216	9%	208	16%	65	7%
電気・ガス・熱供給・水道業	39	0%	13	0%	5	0%	7	1%	1	0%
情報通信業	19	0%	7	0%	5	0%	0	0%	1	0%
運輸業、郵便業	454	4%	122	2%	69	3%	30	2%	38	4%
卸売業、小売業	1,406	13%	569	10%	215	9%	76	6%	42	5%
金融業、保険業	117	1%	53	1%	11	0%	5	0%	3	0%
不動産業、物品賃貸業	115	1%	26	0%	19	1%	3	0%	0	0%
学術研究、専門・技術サービス業	174	2%	38	1%	17	1%	4	0%	5	1%
宿泊業、飲食サービス業	1,032	10%	392	7%	134	5%	106	8%	382	44%
生活関連サービス業、娯楽業	323	3%	161	3%	57	2%	34	3%	23	3%
教育、学習支援業	482	4%	179	3%	113	5%	75	6%	38	4%
医療、福祉	1,532	14%	544	10%	219	9%	253	20%	59	7%
複合サービス事業	307	3%	71	1%	58	2%	23	2%	11	1%
サービス業(他に分類されないもの)	722	7%	309	6%	127	5%	69	5%	46	5%
公務(他に分類されるものを除く)	528	5%	1,502	27%	211	9%	107	8%	91	10%
第3次産業計	7,250	67%	3,986	71%	1,260	51%	792	62%	740	85%
分類不能	141	1%	87	2%	38	2%	13	1%	1	0%
総数	10,779	100%	5,617	100%	2,481	100%	1,277	100%	875	100%

※構成比は端数処理により合計と内訳が一致しない場合があります。

出典：国勢調査

4) 観光

本圏域は、ラベンダーをはじめ四季折々に彩られた自然景観や TV ドラマ、映画の舞台、さらには国際的なスキー場を有し、観光資源に溢れた北海道内屈指の観光地域であり、毎年多くの観光客が訪れます。

令和 3 年度における観光客入込数を表 1-4 に示します。

令和元年度以降、新型コロナウイルス感染症の影響により観光客が減少しましたが、令和 3 年度は感染防止対策の向上やワクチンの普及等の影響により回復傾向となっています。

表 1-4 令和3年度の観光客入込数

単位：千人

市町村名	総数	上半期	下半期
富良野市	1127.0	687.6	439.4
上富良野町	291.1	218.7	72.4
中富良野町	412.0	388.6	23.4
南富良野	259.7	184.0	75.7
占冠村	886.3	407.8	478.5
合計	2976.1	1886.7	1089.4

出典：北海道観光客入込客数調査報告書

5) 土地利用

関係市町村の土地利用状況を表 1-5 に示します。

本圏域では、約 77%を山林が占めています。次いで畑が全体の約 8%、その他が全体の約 5%を占めています。

表 1-5 地目別土地面積（令和2年）

区分	富良野市		上富良野町		中富良野町		南富良野町		占冠村	
	面積 (km ²)	割合	面積 (km ²)	割合	面積 (km ²)	割合	面積 (km ²)	割合	面積 (km ²)	割合
田	38.01	6.3%	22.28	9.4%	33.34	31.6%	2.79	0.4%	1.59	0.3%
畑	72.19	12.0%	49.01	20.7%	14.29	13.5%	25.13	3.8%	5.72	1.0%
宅地	9.9	1.6%	4.83	2.0%	3.07	2.9%	2.34	0.4%	0.92	0.2%
鉱泉地	—	—	—	—	—	—	—	—	—	—
池沼	0.19	0.0%	0.2	0.1%	0.01	0.0%	0	0.0%	0.282813	0.0%
山林	429.14	71.4%	94.46	39.8%	35.73	33.8%	589.61	88.6%	537.3	94.0%
牧場	0.04	0.0%	0.22	0.1%	0	0.0%	—	—	0.01	0.0%
原野	26.91	4.5%	21.38	9.0%	3.4	3.2%	10.67	1.6%	10.95	1.9%
雑種地	7.63	1.3%	2.4	1.0%	3.52	3.3%	6.73	1.0%	2.93	0.5%
その他	16.7	2.8%	42.32	17.8%	12.28	11.6%	28.27	4.2%	11.7	2.0%
合計	600.71	100.0%	237.1	100.0%	105.64	100.0%	665.54	100.0%	571.41	100.0%

出典：第 129 回（令和 4 年）北海道統計書

6) 歴史的沿革

本圏域は、北海道に国郡制が施行された明治 2 年、石狩国空知郡の管轄に編入され、明治 30 年、歌志内村・富良野村組合戸長役場（歌志内村）が設置され、その後明治 32 年、戸長役場が現在の上富良野町市街地に設置され、上川支庁管轄の富良野村となりました。

明治 36 年には、富良野村が南北に分割され、上富良野と中富良野の 2 地区が上富良野村に、下富良野と南富良野が下富良野村となり、下富良野村戸長役場が現在の富良野市市街地に設置されました。

明治 39 年には、占冠村が室蘭支庁管内から上川支庁管内に編入された後、明治 41 年南富良野村が下富良野村から分離、さらに大正 4 年、下富良野村から山部村が分村しました。明治 41 年に南富良野村・占冠村組合役場が設置されましたが、昭和 7 年に南富良野村と占冠村がそれぞれ独立し、昭和 42 年に南富良野村が南富良野町になりました。

一方、昭和 26 年に上富良野村が、昭和 39 年に中富良野村が、それぞれ上富良野町、中富良野町となりました。

下富良野村は、大正 8 年に富良野町となり、昭和 31 年には分村した東山村と合併、さらに昭和 41 年に山部町を合併し、現在の富良野市となりました。

このような変遷を経て、現在の富良野市、上富良野町、中富良野町、南富良野町、占冠村の 1 市 3 町 1 村が形成され、現在に至っています。

2 関係市町村のごみ処理の現状

2.1 関係市町村のごみ処理フロー

令和3年度における各市町村のごみ処理フローは以下のとおりになっています。

1) 富良野市

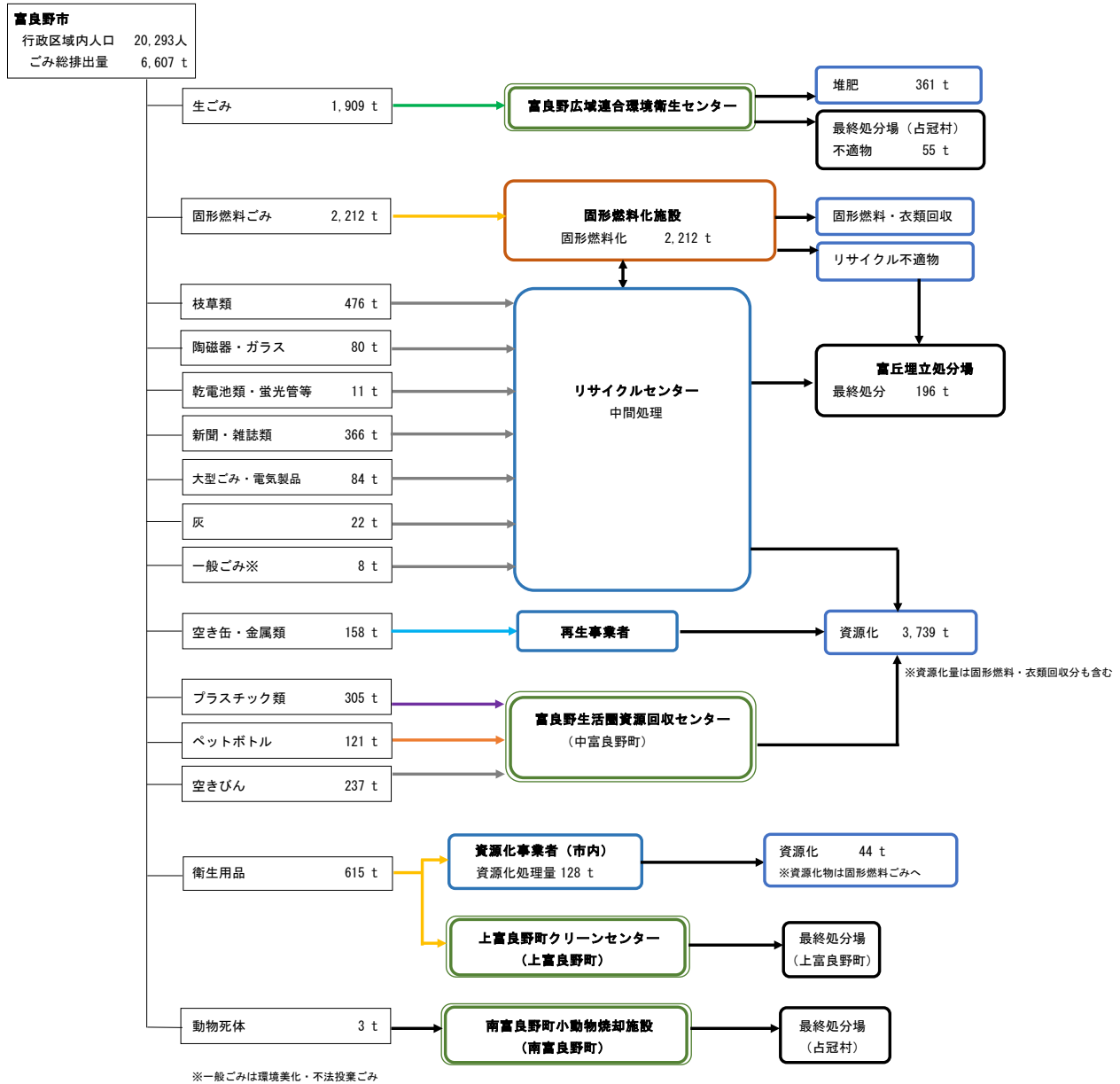


図 2-1 富良野市におけるごみ処理フロー（令和3年度）

2) 上富良野町

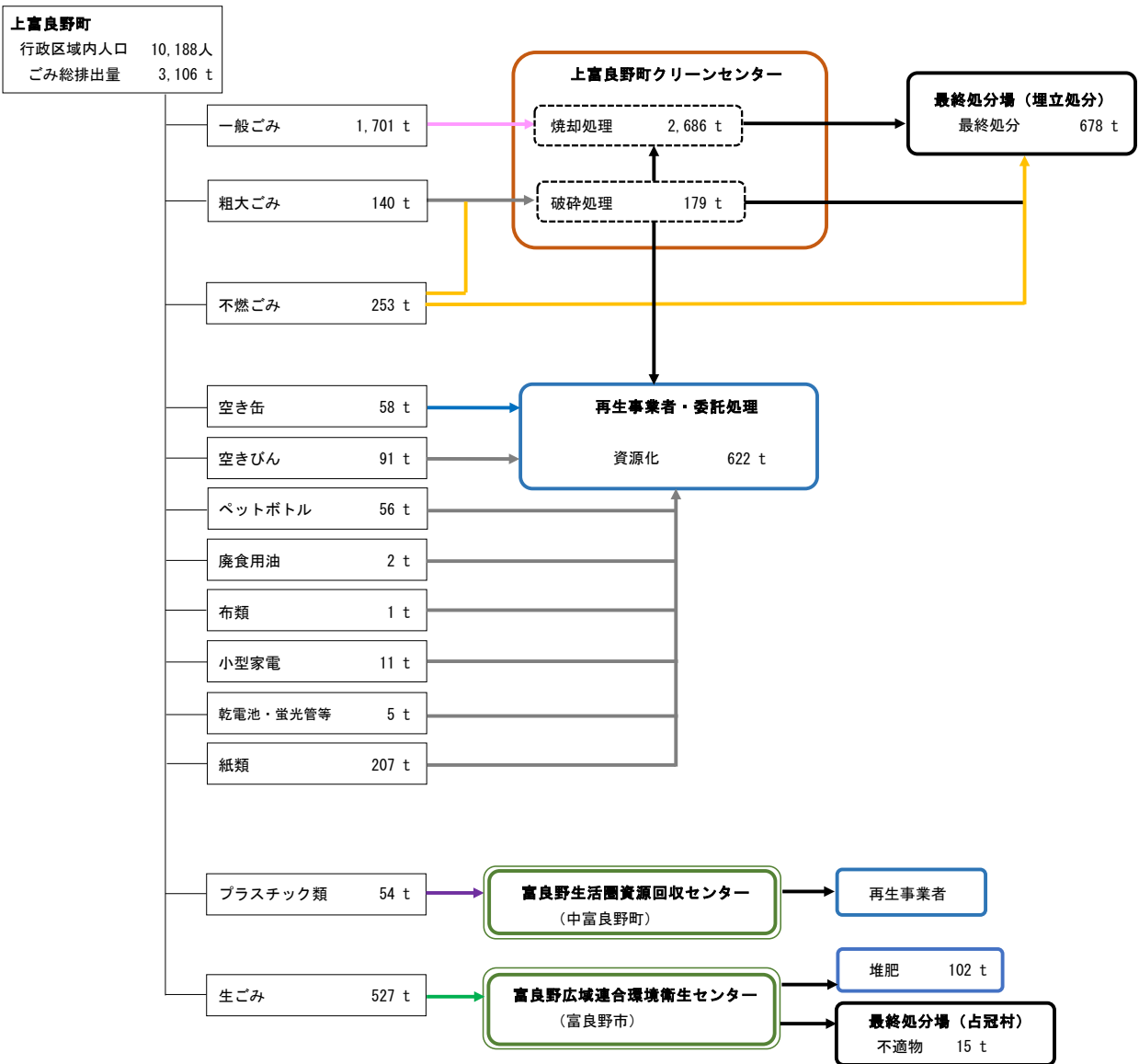


図 2-2 上富良野町のごみ処理フロー（令和3年度）

3) 中富良野町

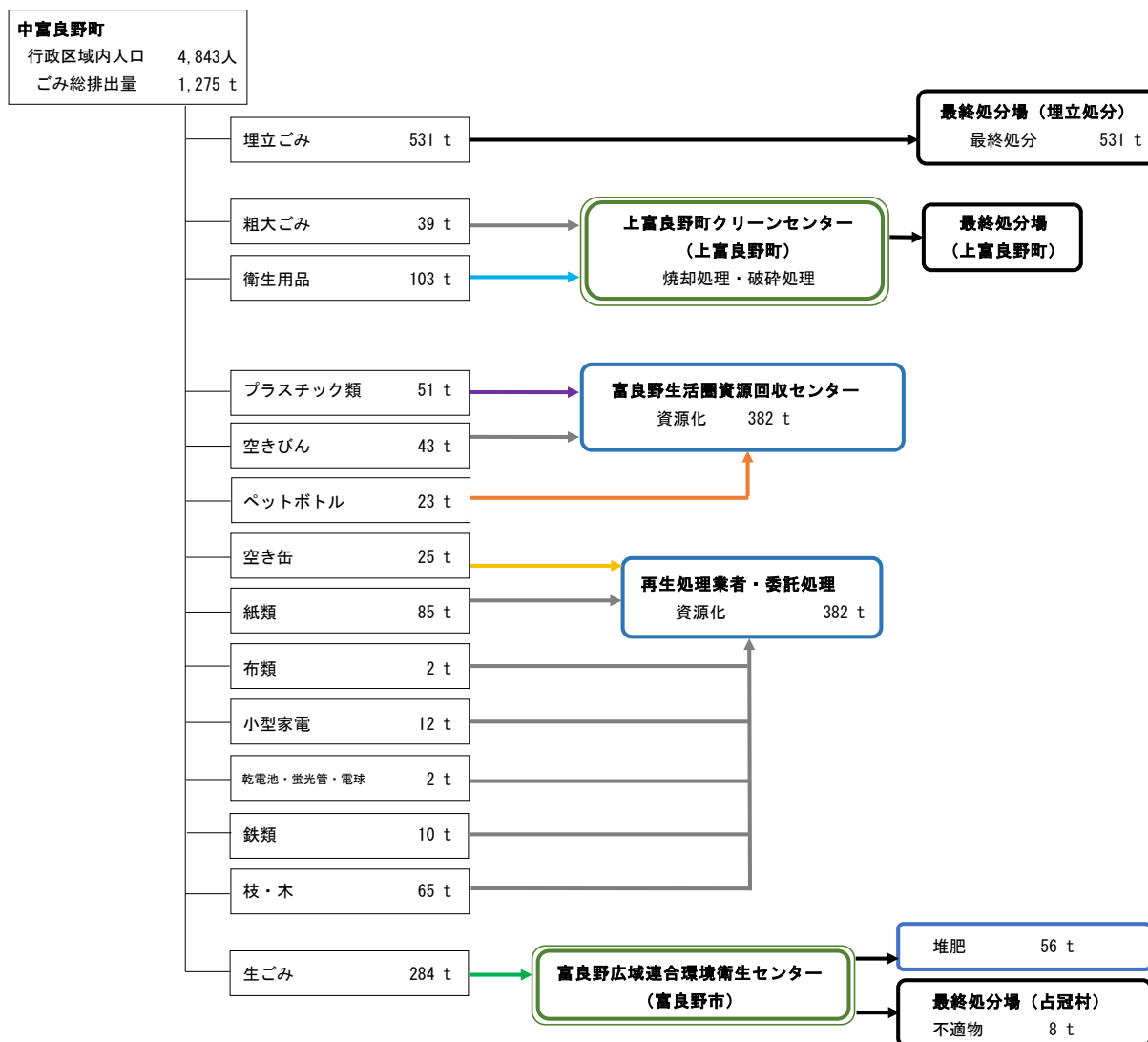


図 2-3 中富良野町におけるごみ処理フロー（令和3年度）

4) 南富良野町

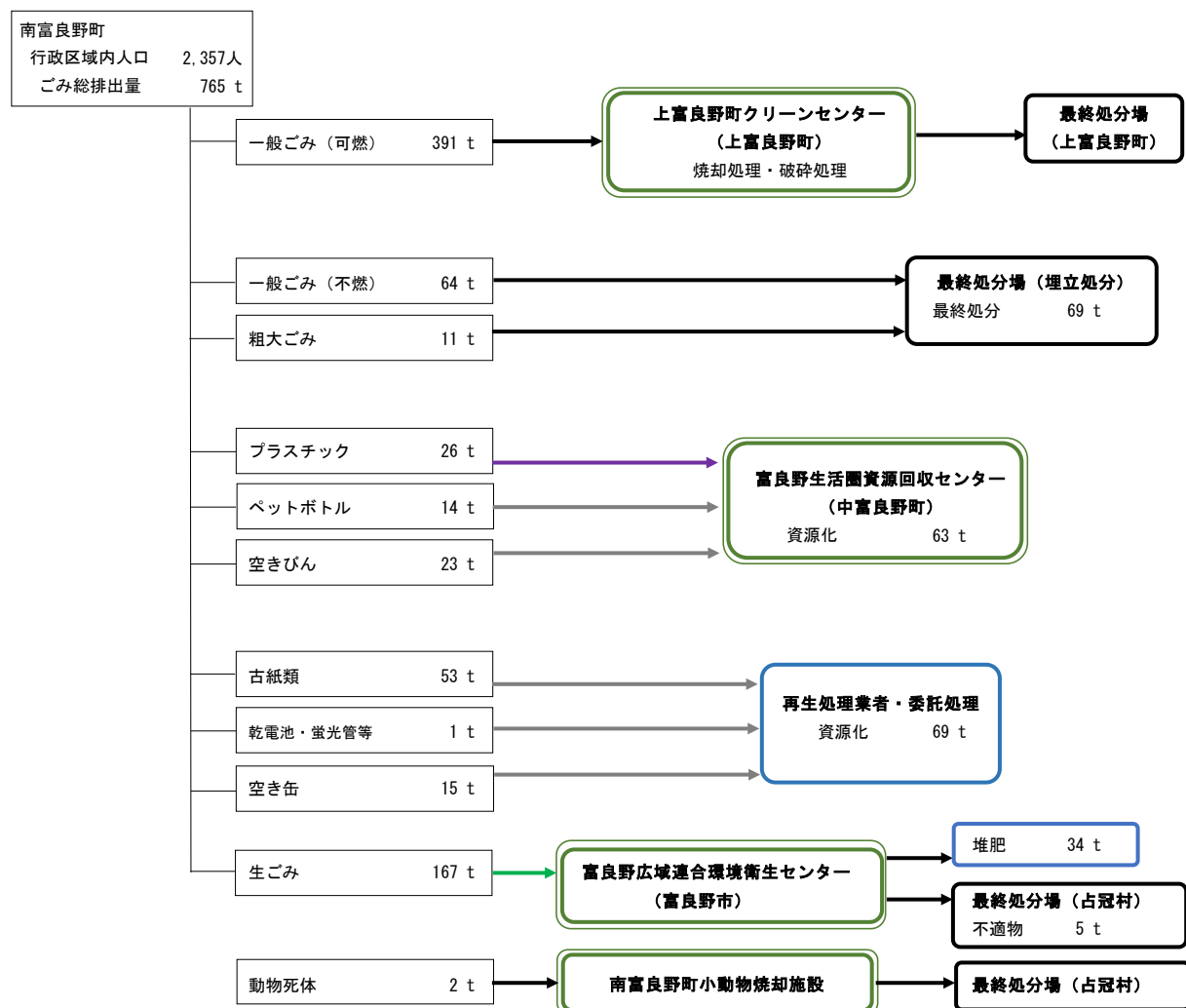


図 2-4 南富良野町におけるごみ処理フロー（令和3年度）

5) 占冠村

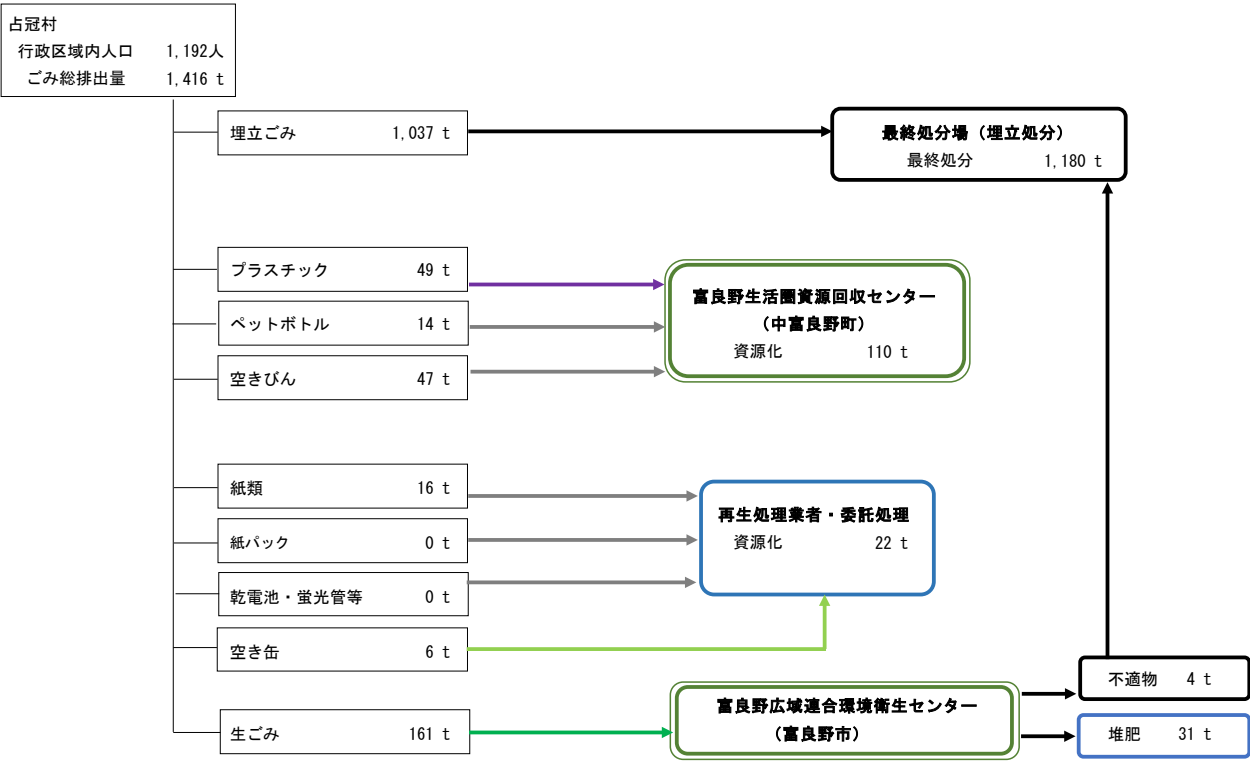


図 2-5 占冠村におけるごみ処理フロー（令和3年度）

2.2 関係市町村のごみ排出量の実績

各市町村の過去5年間のごみ排出量の実績は、次のとおりとなっています。

1) 富良野市

富良野市のごみ排出量は、減少傾向で推移しています。排出者別でみると、家庭系ごみは少しずつ減少傾向で推移しており、事業系ごみは直近2年間で大きく減少しています。

1人1日当たり排出量（以下「原単位」といいます。）は、家庭系ごみは直近2年間で増加し、事業系ごみは減少しています。こうした傾向は、新型コロナウイルスによる影響と考えられます。

表 2-1 富良野市のごみ排出量実績

単位：t/年

区分		平成29年度	平成30年度	令和元年度	令和2年度	令和3年度
行政区域人口（人）		21,910	21,535	21,230	20,796	20,293
ごみ総排出量	生ごみ	2,240	2,210	2,196	1,915	1,909
	枝草類	511	492	453	494	476
	固形燃料ごみ	2,458	2,422	2,351	2,222	2,212
	ペットボトル	124	126	127	116	121
	プラスチック類	193	270	291	297	305
	空き缶・金属類	159	157	158	159	158
	空きびん	301	293	281	240	237
	陶磁器・ガラス	89	93	90	88	80
	乾電池類・蛍光灯等	10	12	11	11	11
	新聞・雑誌類	360	350	345	348	366
	大型ごみ・電気製品	71	76	76	88	84
	衛生用品	635	624	613	621	615
	灰	34	36	40	19	22
	動物死体	2	2	3	3	3
	計	7,186	7,163	7,034	6,619	6,599
★（一般ごみ）		4	5	5	2	8
（一般ごみを含めた合計）		7,190	7,167	7,039	6,621	6,607
ごみ排出量	家庭系ごみ	4,926	4,819	4,772	4,819	4,692
	事業系ごみ	2,260	2,343	2,262	1,804	1,915
1人1日当たり排出量 (g/人・日)	家庭系ごみ	616	613	614	635	633
	事業系ごみ	283	298	291	238	259
	ごみ総排出量	899	911	905	872	891

※四捨五入の関係で合計と内訳が一致しない場合があります。

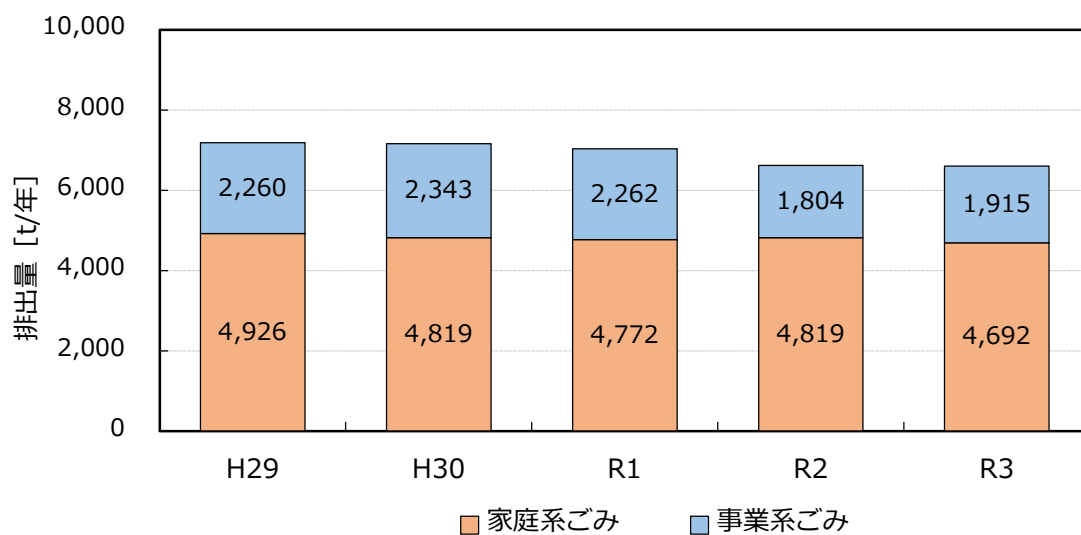


図 2-6 富良野市のごみ排出量実績

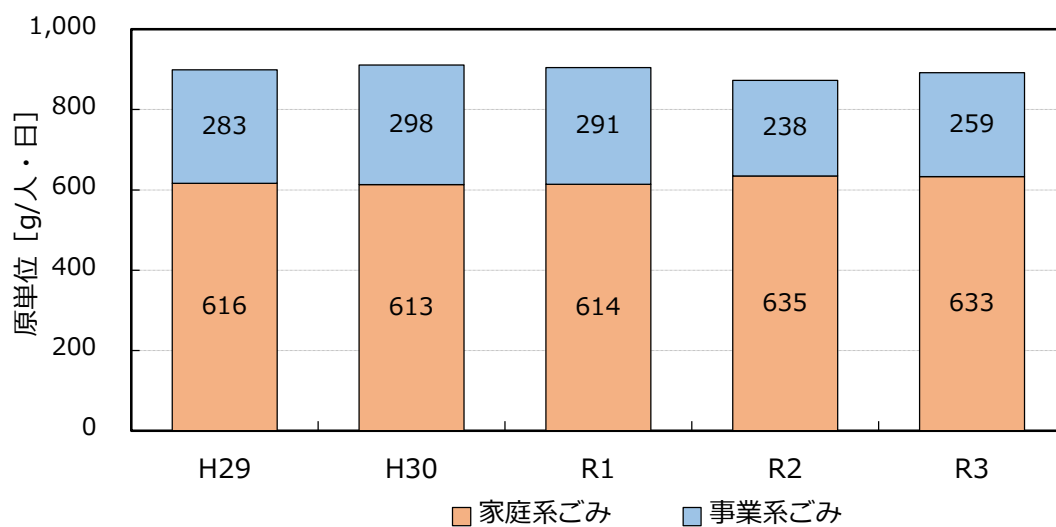


図 2-7 富良野市のごみ排出量原単位

2) 上富良野町

上富良野町のごみ排出量は、減少傾向で推移しています。排出者別でみると、家庭系ごみはほぼ横ばいで推移しており、事業系ごみは直近2年間で大きく減少しています。

原単位については、家庭系ごみは直近2年間で増加し、事業系ごみは減少しています。こうした傾向は、新型コロナウイルスによる影響と考えられます。

表 2-2 上富良野町のごみ排出量実績

単位：t/年

区分		平成29年度	平成30年度	令和元年度	令和2年度	令和3年度
行政区域内人口（人）		10,851	10,639	10,518	10,380	10,188
ごみ総排出量	一般ごみ	1,791	1,749	1,684	1,695	1,701
	不燃ごみ	232	237	233	228	253
	粗大ごみ	111	102	127	127	140
	空き缶	59	58	61	59	58
	空きびん	114	106	105	95	91
	ペットボトル	56	56	58	54	56
	プラスチック類	44	47	50	52	54
	生ごみ	621	632	627	551	527
	廃食用油	1	2	2	1	2
	布類	3	3	2	2	1
	小型家電	17	10	16	11	11
	紙類	180	177	179	194	207
	乾電池・蛍光灯等	5	5	4	5	5
	計	3,235	3,186	3,150	3,077	3,106
ごみ排出量	家庭系ごみ	2,435	2,444	2,507	2,501	2,522
	事業系ごみ	800	742	643	576	584
1人1日当たり 排出量 (g/人・日)	家庭系ごみ	615	629	651	660	678
	事業系ごみ	202	191	167	152	157
	ごみ総排出量	817	820	818	812	835

※四捨五入の関係で合計と内訳が一致しない場合があります。

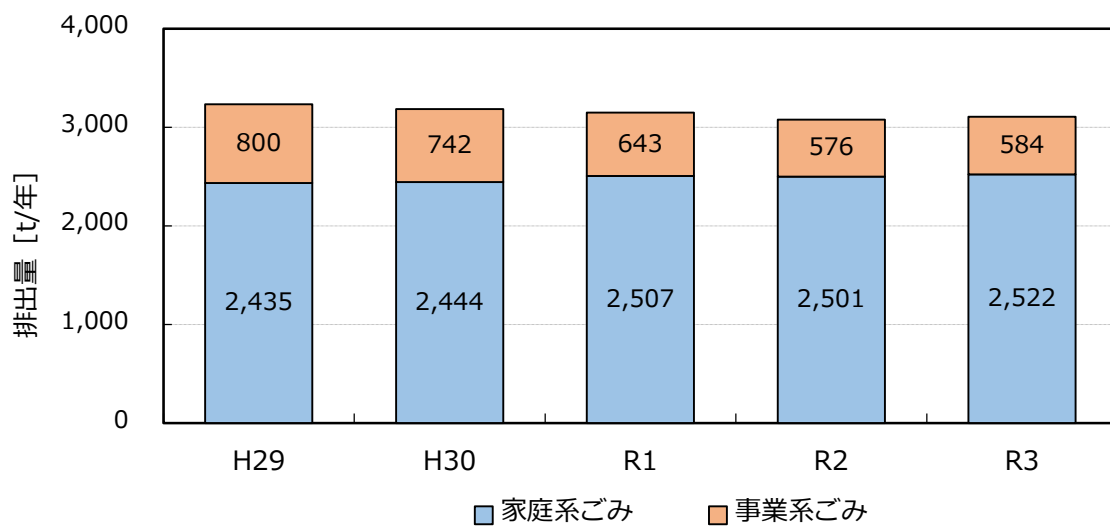


図 2-8 上富良野町のごみ排出量実績

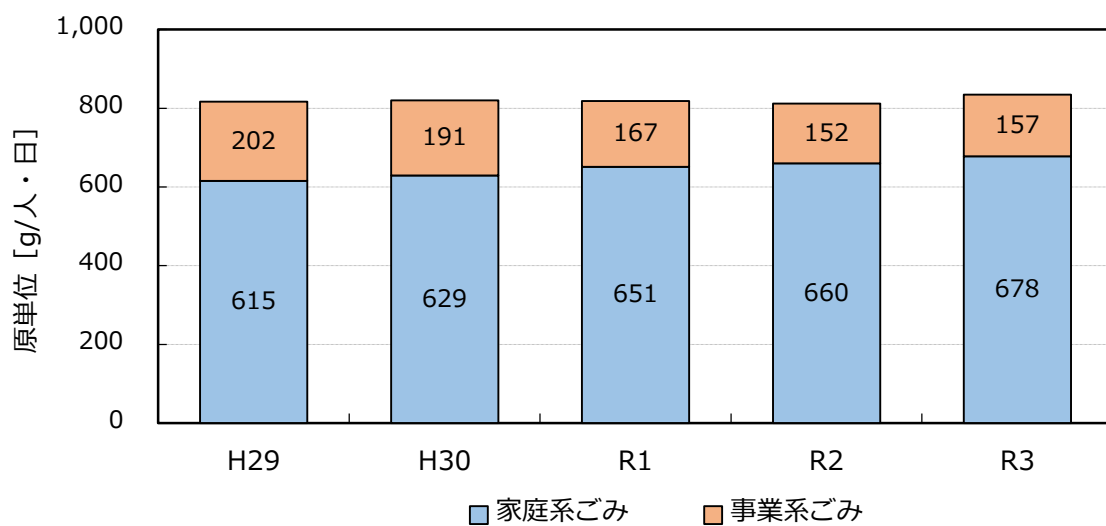


図 2-9 上富良野町のごみ排出量原単位

3) 中富良野町

中富良野町のごみ排出量は、減少傾向で推移しています。排出者別でみると、家庭系ごみはほぼ横ばいで推移しており、事業系ごみは増減を繰り返しながら若干減少傾向で推移しています。

原単位については、家庭系ごみは直近2年間で増加し、事業系ごみは減少しています。こうした傾向は、新型コロナウイルスによる影響と考えられます。

表 2-3 中富良野町のごみ排出量実績

単位：t/年

区分		平成29年度	平成30年度	令和元年度	令和2年度	令和3年度
行政区域内人口（人）		5,105	5,063	4,998	4,890	4,843
ごみ総排出量	埋立ごみ	559	588	605	559	531
	衛生用品	101	110	109	103	103
	粗大ごみ	29	32	35	41	39
	生ごみ	312	298	310	295	284
	プラスチック類	50	54	53	51	51
	空き缶	29	28	27	26	25
	ペットボトル	22	23	23	20	23
	空きびん	57	55	52	44	43
	紙類	82	86	92	84	85
	鉄類	8	10	9	12	10
	枝・木	63	54	37	63	65
	乾電池・蛍光管・電球	2	2	2	2	2
	小型家電	8	11	9	10	12
	布類	2	2	3	2	2
	計	1,324	1,353	1,366	1,312	1,275
ごみ排出量	家庭系ごみ	1,151	1,146	1,174	1,165	1,113
	事業系ごみ	173	207	192	147	162
1人1日当たり 排出量 (g/人・日)	家庭系ごみ	618	620	642	653	630
	事業系ごみ	93	112	105	82	92
	ごみ総排出量	711	732	747	735	721

※四捨五入の関係で合計と内訳が一致しない場合があります。

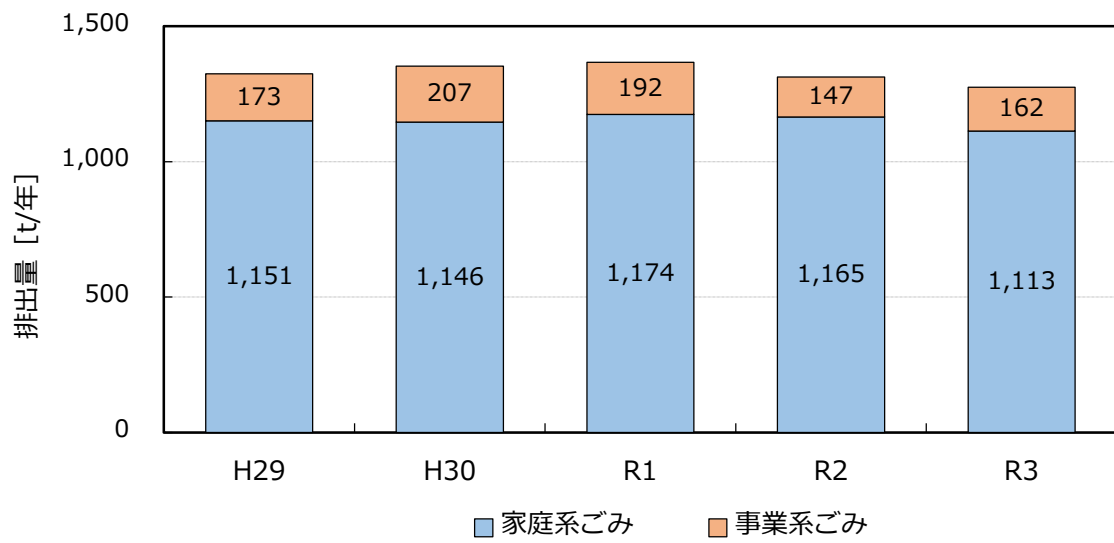


図 2-10 中富良野町のごみ排出量実績

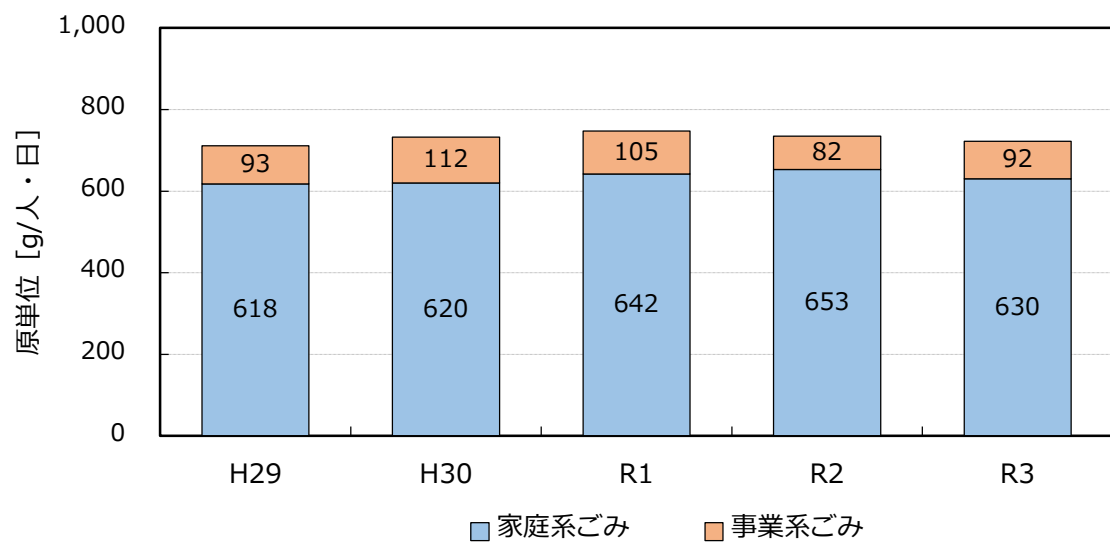


図 2-11 中富良野町のごみ排出量原単位

4) 南富良野町

南富良野町のごみ排出量は、減少傾向で推移しています。排出者別でみると、家庭系ごみは減少傾向で推移しており、事業系ごみは、直近3年間はほぼ横ばいで推移しています。

原単位については、家庭系ごみは直近2年間で増加し、事業系ごみは減少しています。こうした傾向は、新型コロナウイルスによる影響と考えられます。

表 2-4 南富良野町のごみ排出量実績

単位：t/年

区分		平成29年度	平成30年度	令和元年度	令和2年度	令和3年度
行政区域内人口（人）		2,560	2,544	2,465	2,404	2,357
ごみ総排出量	一般ごみ（可燃）	425	408	422	406	391
	一般ごみ（不燃）	79	74	64	62	64
	粗大ごみ	10	13	12	10	11
	生ごみ	224	201	198	178	167
	プラスチック	26	27	27	26	26
	空き缶	15	12	14	15	15
	ペットボトル	14	14	13	20	14
	空きびん	27	27	25	22	23
	古紙類	63	57	78	59	53
	乾電池・蛍光灯等	2	2	1	1	1
	計	886	836	853	798	765
ごみ排出量	家庭系ごみ	779	726	769	713	682
	事業系ごみ	107	110	84	85	83
1人1日当たり 排出量 (g/人・日)	家庭系ごみ	834	782	852	813	793
	事業系ごみ	115	118	93	97	96
	ごみ総排出量	949	900	945	910	889

※四捨五入の関係で合計と内訳が一致しない場合があります。

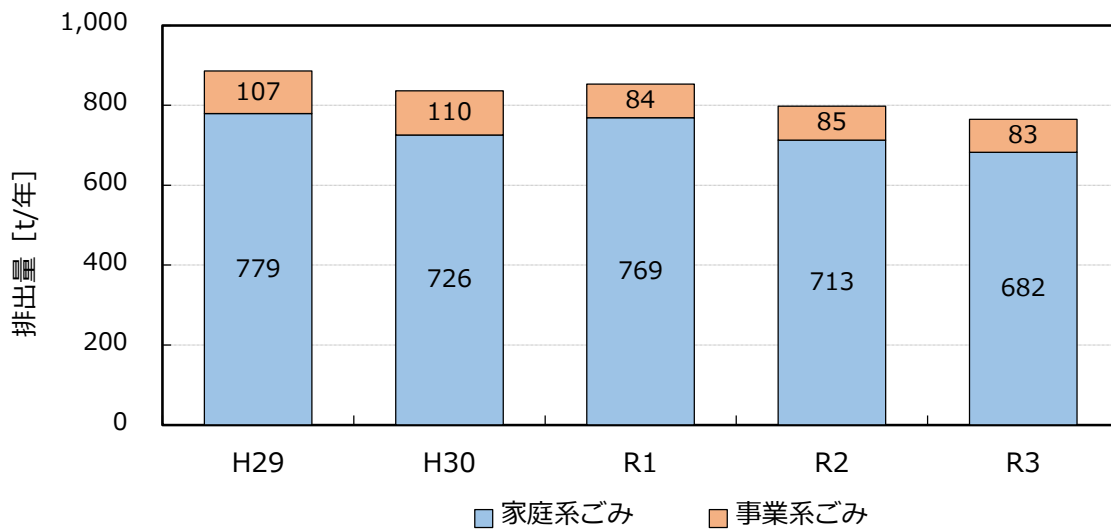


図 2-12 南富良野町のごみ排出量実績

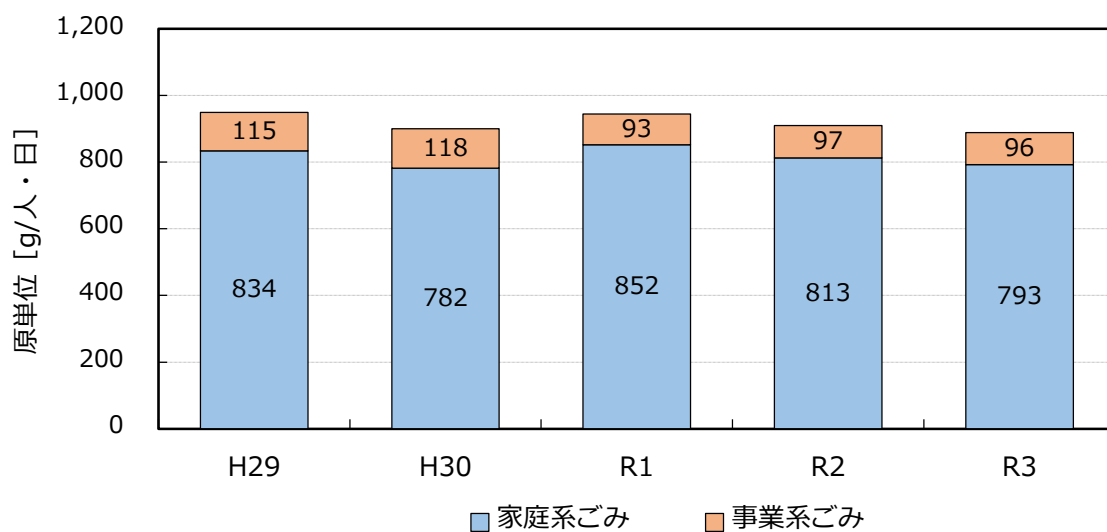


図 2-13 南富良野町のごみ排出量原単位

5) 占冠村

占冠村のごみ排出量は、増減を繰り返しながら減少傾向で推移しています。排出者別でみると、家庭系ごみは減少傾向で推移しており、事業系ごみは令和2年度に大きく減少しましたが、令和3年度で増加しています。

原単位については、家庭系ごみはほぼ横ばいで推移し、事業系ごみは令和2年度で大きく減少しています。令和2年度以降の事業系ごみの推移は、新型コロナウイルスによる影響によるものと考えられます。

表 2-5 占冠村のごみ排出量実績

単位：t/年

区分		平成29年度	平成30年度	令和元年度	令和2年度	令和3年度
行政区域内人口（人）		1,389	1,427	1,271	1,298	1,192
ごみ総排出量	埋立ごみ	1,174	1,482	1,509	991	1,037
	生ごみ	310	291	259	152	161
	プラスチック	18	38	53	45	49
	ペットボトル	21	20	21	12	14
	空き缶	9	7	7	7	6
	鉄類	0	0	2	2	2
	空きびん	51	58	62	34	47
	紙類	9	7	20	20	16
	乾電池・蛍光灯等	1	2	0	1	0
	計	1,593	1,906	1,933	1,284	1,416
ごみ排出量	家庭系ごみ	694	713	760	645	626
	事業系ごみ	899	1,193	1,173	639	790
1人1日当たり 排出量 (g/人・日)	家庭系ごみ	1,369	1,369	1,634	1,361	1,439
	事業系ごみ	1,773	2,290	2,522	1,349	1,816
	ごみ総排出量	3,142	3,659	4,155	2,710	3,255

※四捨五入の関係で合計と内訳が一致しない場合があります。

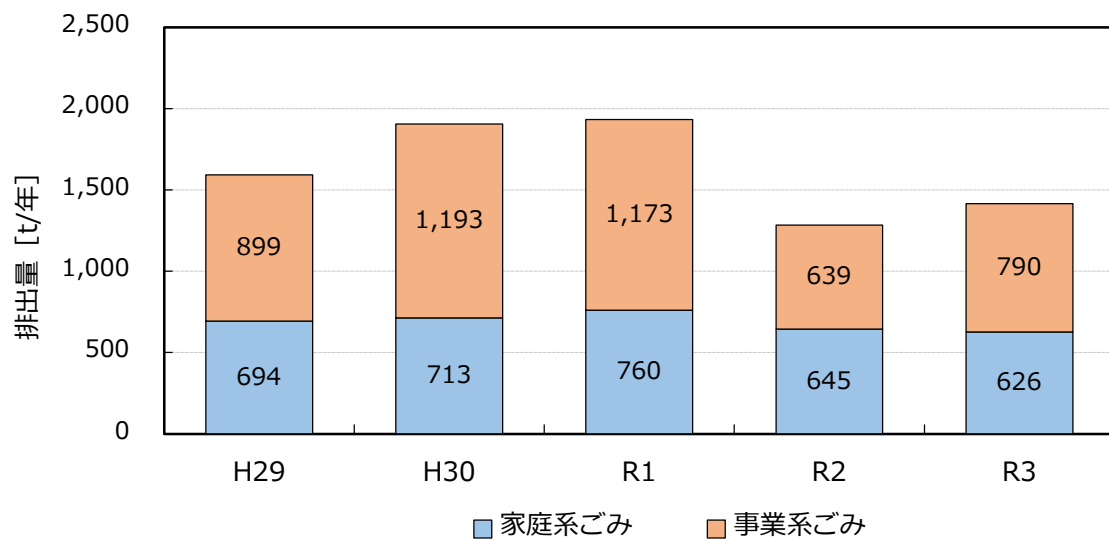


図 2-14 占冠村のごみ排出量実績

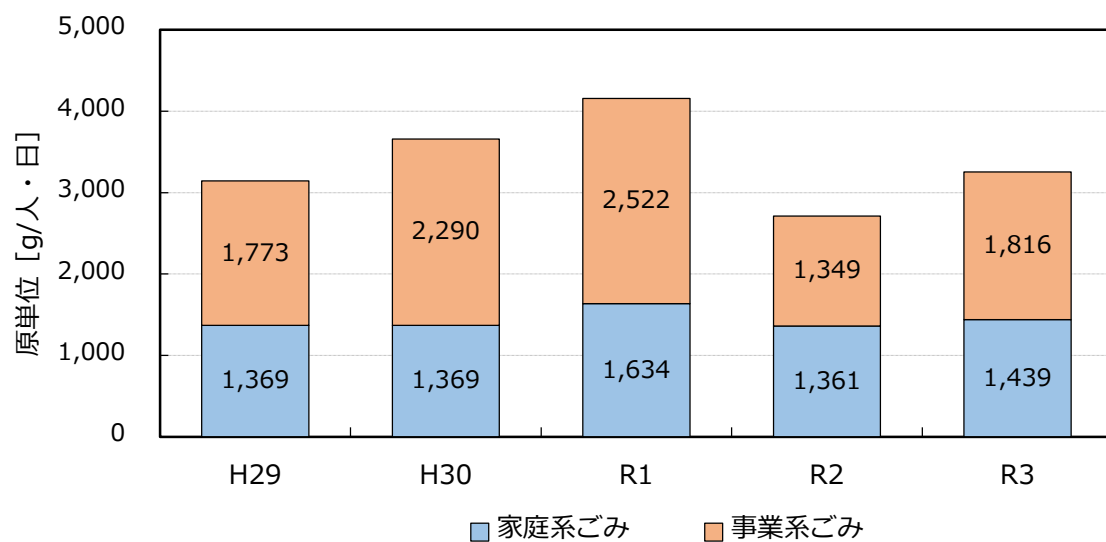


図 2-15 占冠村のごみ排出量原単位

6) 富良野生活圏全体

富良野生活圏全体の過去5年間のごみ排出量の推移を示します。ごみ排出量の構成割合は、富良野市、上富良野町、占冠村、中富良野町、南富良野町の順で大きくなっています。

ごみ排出量原単位は、令和3年度において占冠村が最も大きくなっており、次いで富良野市、南富良野町、上富良野町、中富良野町の順になっています。

表 2-6 富良野生活圏全体のごみ排出量と原単位の実績

区分		平成29年度	平成30年度	令和元年度	令和2年度	令和3年度
行政区域内人口（人）		36,710	36,145	35,484	34,878	34,030
ごみ排出量 (t/年)	富良野市	7,190	7,167	7,039	6,621	6,607
	上富良野町	3,235	3,186	3,150	3,077	3,106
	中富良野町	1,324	1,353	1,366	1,312	1,275
	南富良野町	886	836	853	798	765
	占冠村	1,593	1,906	1,933	1,284	1,416
1人1日当たり 排出量 (g/人・日)	富良野市	899	911	905	872	891
	上富良野町	817	820	818	812	835
	中富良野町	711	732	747	735	721
	南富良野町	949	900	945	910	889
	占冠村	3,142	3,659	4,155	2,710	3,255

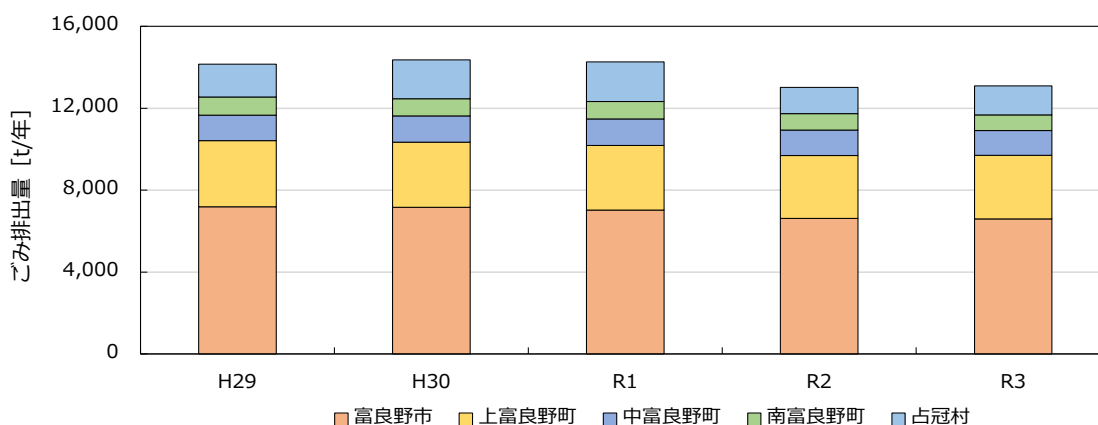


図 2-16 富良野生活圏全体のごみ排出量の推移

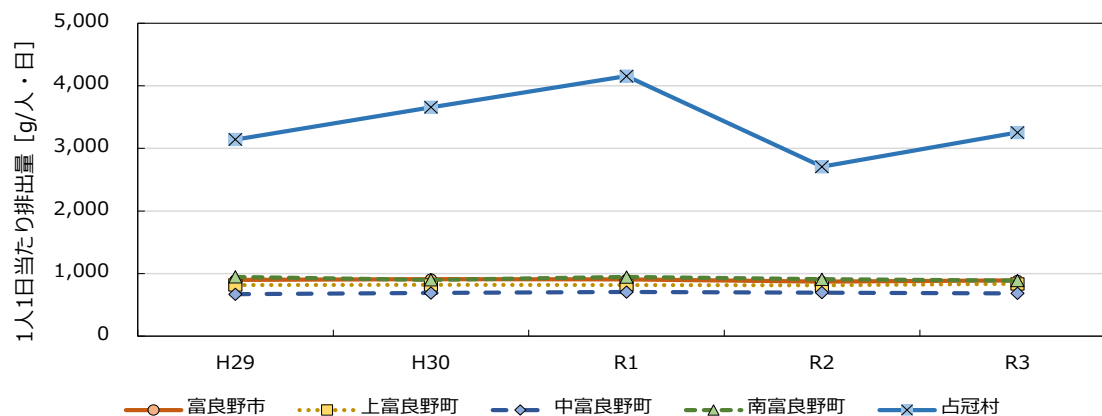


図 2-17 富良野生活圏全体の原単位の推移

2.3 関係市町村のごみ分別区分

各市町村のごみの分別区分は、下記のとおりです。

表 2-7 関係市町村のごみ分別区分

	富良野市	上富良野町	中富良野町	南富良野町	占冠村
分別区分	生ごみ	生ごみ	生ごみ	生ごみ	生ごみ
	ペットボトル	ペットボトル	ペットボトル	ペットボトル	ペットボトル
	プラスチック類	プラスチック類	プラスチック類	プラスチック類	プラスチックごみ
	空きびん・陶磁器・ガラス	空きびん	空きびん	空きびん	空きびん
	空き缶・金属類	空き缶	空き缶	空き缶	空き缶
	大型ごみ・電気製品	粗大ごみ	粗大ごみ	粗大ごみ	粗大ごみ
	新聞・雑誌類	紙類	紙類	古紙類	紙類
	乾電池類・蛍光管等	乾電池・蛍光管	乾電池・蛍光管・電球	乾電池・蛍光管等	紙パック・乾電池・蛍光管等
	固形燃料ごみ	一般ごみ	埋立ごみ	一般ごみ（可燃）	埋立ごみ
	衛生用品	不燃ごみ	衛生用品	一般ごみ（不燃）	鉄類
	枝草類	廃食用油	枝・木		
	灰	小型家電	小型家電		
	動物死体		布類		
			鉄類		

2.4 収集運搬

各市町村におけるごみの収集体系は以下のとおりです。

1) 富良野市

富良野市における令和4年度のごみ収集方法及び収集頻度は以下のとおりです。

表 2-8 収集方法及び収集頻度（富良野市）

分別区分	排出方法	収集方法	収集頻度
生ごみ	指定袋	ステーション	週2回
枝草類	枝：紐結束 草：透明袋	ステーション	隔週
固形燃料ごみ	指定袋	ステーション	週1回
ペットボトル	指定袋	ステーション	隔週
プラスチック類	指定袋	ステーション	週1回
空き缶・金属類	空き缶：指定袋 金属類：透明袋	ステーション	隔週
空きびん・陶磁器・ガラス	空きびん：専用ポスト 陶磁器・ガラス：専用回収コンテナ		随時投入
乾電池類・蛍光灯等	乾電池類：回収ボックス 蛍光灯等：袋等へ入れて回収協力店へ		随時
新聞・雑誌類	紐結束	ステーション	隔週
大型ごみ・電気製品	戸別収集		月1回
衛生用品	指定袋	ステーション	週1回
灰	透明袋	ステーション	隔週
動物死体	随時自己搬入		

2) 上富良野町

上富良野町における令和4年度のごみ収集方法及び収集頻度は以下のとおりです。

表 2-9 収集方法及び収集頻度（上富良野町）

分別区分	排出方法	収集方法	収集頻度
一般ごみ	指定袋	ステーション	週2回
不燃ごみ	指定袋	ステーション	月1回
粗大ごみ	戸別収集		月2回
空きびん	指定袋	ステーション	月1回
空き缶	指定袋	ステーション	月1回
ペットボトル	指定袋	ステーション	隔週
プラスチック類	指定袋	ステーション	週1回
紙類	紐結束	ステーション	月1回
乾電池・蛍光管	専用ボックス		随時
布類	専用ボックス		随時
廃食用油	専用タンク		随時
小型家電	指定袋に入れて随時搬入		

3) 中富良野町

中富良野町における令和4年度のごみ収集方法及び収集頻度は以下のとおりです。

表 2-10 収集方法及び収集頻度（中富良野町）

分別区分	排出方法	収集方法	収集頻度
埋立ごみ	透明袋	ステーション	週1～2回
衛生用品	指定袋	ステーション	週2回
粗大ごみ	戸別収集		月1回
生ごみ	指定袋	ステーション	週1～2回
プラスチック類	指定袋	ステーション	週1回
空き缶	指定袋	ステーション	隔週
ペットボトル	指定袋	ステーション	月2回
空きびん	紐結束	ステーション	月2回
紙類	紐結束	ステーション	月1～2回
鉄類	透明袋	ステーション	月2回
枝・木	紐結束	ステーション	月1回（5～11月）
乾電池・蛍光管・電球	専用ボックス		随時
布類	回収ボックス		随時
小型家電	随時搬入		

4) 南富良野町

南富良野町における令和4年度のごみ収集方法及び収集頻度は以下のとおりです。

表 2-11 収集方法及び収集頻度（南富良野町）

分別区分	排出方法	収集方法	収集頻度
一般ごみ（可燃）	指定袋	ステーション	週1回
一般ごみ（不燃）	指定袋	ステーション	3週～1月に1回 （年15回）
粗大ごみ	戸別収集		年6回
生ごみ	指定袋	ステーション	週1～2回 （4～10月は2回）
プラスチック類	指定袋	ステーション	週1回
空き缶	指定袋	ステーション	3週～1月に1回 （年15回）
空きびん	指定袋 （色分けして排出）	ステーション	3週～1月に1回 （年15回）
ペットボトル	指定袋	ステーション	3週～1月に1回 （年15回）
古紙類	紐結束	ステーション	3週～1月に1回 （年15回）
乾電池・蛍光灯等	回収ボックス		随時

5) 占冠村

占冠村における令和4年度のごみ収集方法及び収集頻度は以下のとおりです。

表 2-12 収集方法及び収集頻度（占冠村）

分別区分	排出方法	収集方法	収集頻度
埋立ごみ	透明袋	ステーション	週2回
生ごみ	指定袋	ステーション	週2回
プラスチックごみ	指定袋	ステーション	週1回
ペットボトル	指定袋	ステーション	隔週
空き缶	指定袋	ステーション	隔週
鉄類	透明袋	ステーション	隔週
空きびん	指定袋 （色分けして排出）	ステーション	月1回
紙類	紐結束	ステーション	週1回
紙パック・乾電池・ 蛍光灯等	回収ボックス		随時
粗大ごみ	戸別収集		年2回

2.5 中間処理

各市町村の中間処理について整理します。

1) 富良野市

(1) 堆肥化处理

生ごみは富良野広域連合環境衛生センターにて堆肥化处理を行なっています。過去5年間の搬入実績を下記に示します。

表 2-13 堆肥化处理の実績（富良野市）

単位：t/年

区分	平成29年度	平成30年度	令和元年度	令和2年度	令和3年度
生ごみ	2,240	2,210	2,196	1,915	1,909

(2) 固形燃料化处理

富良野市の単独処理として、富良野市リサイクルセンター（固形燃料化施設）で固形燃料ごみを対象とした固形燃料化を実施しています。

富良野市リサイクルセンターの概要と処理実績を下記に示します。

表 2-14 富良野市リサイクルセンター（固形燃料化施設）の概要

施設名称	富良野市リサイクルセンター
所在地	富良野市字山部西 20 線 21 番地
使用開始	昭和 63 年 7 月
処理対象品目	紙類、木くず類、布製品、容器包装以外のプラスチック製品など
処理能力	15t/日（6 時間）
処理フロー	投入ホッパ→破袋機→磁選機→手選別→破砕機→磁選機→貯留ホッパ→定量供給装置→成形機（2 台）→計量機→冷却装置、脱臭装置、集塵装置

表 2-15 固形燃料化处理の実績

単位：t/年

区分		平成29年度	平成30年度	令和元年度	令和2年度	令和3年度
搬入	固形燃料ごみ	2,458	2,422	2,351	2,222	2,212
	施設間移動量	31	26	26	23	22
	固形燃料処理量	2,464	2,424	2,345	2,219	2,212
搬出	衣類・布類回収	3	2	2	1	1
	施設間移動量	22	23	29	25	25
	固形燃料（RDF）生成量	2,210	2,310	2,315	2,073	2,016

(3) 焼却処理

富良野市では、一部の衛生用品を除き、上富良野町クリーンセンターで焼却処理を行っています。過去5年間の処理実績を以下に示します。

表 2-16 上富良野町クリーンセンターにおける焼却処理量の実績

単位：t/年

区分		平成29年度	平成30年度	令和元年度	令和2年度	令和3年度
搬入	衛生用品※	511	504	498	500	487
	焼却処理量	511	504	498	500	487

※搬入量は資源化处理する衛生用品を除いた量となります。

(4) 資源化处理

富良野市では、プラスチック類、ペットボトル、空きびんを富良野生活圏資源回収センター（中富良野町）で資源化处理を行なっています。それ以外の枝草類、乾電池類、陶磁器・ガラス、大型ごみ・電気製品、新聞・雑誌・段ボール・紙パック、灰を富良野市リサイクルセンターにおいて選別保管や手分解等の中間処理を行なっています。また、一部の衛生用品は民間施設にて資源化处理を行っています。

富良野生活圏資源回収センター（中富良野町）、富良野市リサイクルセンターにおける過去5年間の処理実績を表 2-17と表 2-18に、民間施設における衛生用品の資源化处理の実績を表 2-19に示します。

表 2-17 富良野生活圏資源回収センターの処理実績（富良野市）

単位：t/年

区分		平成29年度	平成30年度	令和元年度	令和2年度	令和3年度
搬入	ペットボトル	124	126	127	116	121
	プラスチック類	193	270	291	297	305
	空きびん	301	293	281	240	237
搬出	資源化量	597	670	681	638	649
	施設間移動量	21	19	18	14	14

表 2-18 富良野市リサイクルセンターにおける資源化処理実績

単位：t/年

区分		平成29年度	平成30年度	令和元年度	令和2年度	令和3年度
搬入	草枝類	511	492	453	494	476
	陶磁器・ガラス	89	93	90	88	80
	乾電池類・蛍光灯類	10	12	11	11	11
	新聞・雑誌類	360	350	345	348	366
	大型ごみ・電気製品	71	76	76	88	84
	一般ごみ	4	5	5	2	8
再生業者	空き缶・金属類	159	157	158	159	158
搬出	資源化量	1,088	1,069	1,027	1,077	1,073

表 2-19 衛生用品の資源化処理の実績

単位：t/年

区分	平成30年度	令和元年度	令和2年度	令和3年度
資源化処理量	120	114	121	128
固形燃料（RDF）生成量	41	41	41	44

2) 上富良野町

(1) 堆肥化处理

生ごみは富良野広域連合環境衛生センターにて堆肥化处理を行なっています。過去5年間の搬入実績を下記に示します。

表 2-20 堆肥化处理の実績（上富良野町）

単位：t/年

区分	平成29年度	平成30年度	令和元年度	令和2年度	令和3年度
生ごみ	621	632	627	551	527

(2) 焼却処理

上富良野町では、可燃ごみと破砕施設から搬出される破砕残渣を上富良野町クリーンセンターで焼却処理を行なっています。

過去5年間の処理実績を下記に示します。

表 2-21 焼却処理の実績

単位：t/年

区分		平成29年度	平成30年度	令和元年度	令和2年度	令和3年度
焼却処理量	可燃ごみ	1,791	1,749	1,684	1,695	1,701
	破砕可燃物	109	98	128	125	131
	計	2,755	2,706	2,706	2,691	2,686
搬出	焼却残渣	434	414	408	429	426

※焼却処理量の合計には広域分担処理分を含みます。

(3) 選別・破砕処理

上富良野町クリーンセンターでは、不燃ごみを選別し鉄くずを回収し、残りを最終処分場で埋立処分しています。粗大ごみは破砕し、鉄類を回収した後、可燃性の破砕残渣は焼却処理、不燃性の破砕残渣は埋立処分しています。

表 2-22 選別・破砕処理量の実績

単位：t/年

区分		平成29年度	平成30年度	令和元年度	令和2年度	令和3年度
搬入	不燃ごみ	232	237	233	228	253
	粗大ごみ	111	102	127	127	140
	破砕処理量	140	131	162	162	179
搬出	鉄くず回収	37	33	37	41	43
	破砕可燃物	109	98	128	125	131
	破砕不燃物	5	9	8	7	6

※破砕処理量には広域分担処理分を含みます。

(4) 資源化処理

上富良野町では、プラスチック類を富良野生活圏資源回収センター（中富良野町）で資源化処理を行なっています。空き缶、空きびん、ペットボトル、紙類、電池・蛍光灯は再生処理業者へ委託処理しています。

上富良野町における過去5年間の資源化処理の実績を下記に示します。

表 2-23 資源化処理量の実績

単位：t/年

搬入先	区分	平成29年度	平成30年度	令和元年度	令和2年度	令和3年度
富良野生活圏資源回収センター	資源化量					
	プラスチック類	44	47	50	52	54
	計	44	47	50	52	54
再生処理業者	資源化量					
	空き缶	59	58	61	59	58
	空きびん	114	106	105	95	91
	ペットボトル	56	56	58	54	56
	廃食用油	1	2	2	1	2
	布類	3	3	2	2	1
	小型家電	17	10	16	11	11
	紙類	180	177	179	194	207
	乾電池・蛍光灯等	5	5	4	5	5
	枝木類	0	0	0	0	0
	計	435	417	427	421	431
資源化量合計		479	464	477	473	485

3) 中富良野町

(1) 堆肥化处理

生ごみは富良野広域連合環境衛生センターにて堆肥化处理を行なっています。過去5年間の搬入実績を下記に示します。

表 2-24 堆肥化处理の実績（中富良野町）

単位：t/年

区分	平成29年度	平成30年度	令和元年度	令和2年度	令和3年度
生ごみ	312	298	310	295	284

(2) 焼却処理

中富良野町では、衛生用品を上富良野町クリーンセンターで焼却処理しています。

表 2-25 焼却処理量の実績（中富良野町）

単位：t/年

区分	平成29年度	平成30年度	令和元年度	令和2年度	令和3年度
破碎処理量 衛生用品	101	110	109	103	103

(3) 破碎処理

中富良野町では、粗大ごみを上富良野町クリーンセンターで破碎処理しています。

表 2-26 破碎処理量の実績（中富良野町）

単位：t/年

区分	平成29年度	平成30年度	令和元年度	令和2年度	令和3年度
破碎処理量 粗大ごみ	29	32	35	41	39

(4) 資源化处理

中富良野町では、プラスチック類、ペットボトル、空きびんを富良野生活圏資源回収センターで資源化处理を行なっています。空き缶、紙類、鉄類、電池・蛍光灯・電球、小型家電、布類は再生処理業者へ委託処理しています。

表 2-27 富良野生活圏資源回収センターにおける資源化处理の実績

単位：t/年

区分	平成29年度	平成30年度	令和元年度	令和2年度	令和3年度
資源化量	プラスチック類	50	54	53	51
	ペットボトル	22	23	23	20
	空きびん	57	55	52	44
	計	129	132	128	115

表 2-28 資源化処理の実績

単位：t/年

区分		平成29年度	平成30年度	令和元年度	令和2年度	令和3年度
資源化量	空き缶	29	28	27	26	25
	紙類	82	86	92	84	85
	鉄類	8	10	9	12	10
	乾電池・蛍光管・電球	2	2	2	2	2
	小型家電	8	11	9	10	12
	布類	2	2	3	2	2
	計	131	139	142	136	136

4) 南富良野町

(1) 堆肥化处理

生ごみは富良野広域連合環境衛生センターにて堆肥化处理を行なっています。過去5年間の搬入実績を下記に示します。

表 2-29 堆肥化处理の実績（南富良野町）

単位：t/年

区分	平成29年度	平成30年度	令和元年度	令和2年度	令和3年度
生ごみ	224	201	198	178	167

(2) 焼却処理

南富良野町では、一般ごみ（可燃）を上富良野町クリーンセンターで焼却処理しています。

表 2-30 焼却処理の実績

単位：t/年

区分	平成29年度	平成30年度	令和元年度	令和2年度	令和3年度
焼却処理量 一般ごみ（可燃）	425	408	422	406	391

(3) 資源化处理

南富良野町では、プラスチック類、ペットボトル、空きびんを富良野生活圏資源回収センターで資源化处理を行なっています。空き缶、紙類、鉄類、電池・蛍光管・電球、小型家電、布類は再生処理業者へ委託処理しています。

表 2-31 資源化处理の実績

単位：t/年

搬入先	区分	平成29年度	平成30年度	令和元年度	令和2年度	令和3年度
富良野生活圏資源回収センター	資源化量 プラスチック類	26	27	27	26	26
	ペットボトル	14	14	13	20	14
	空きびん	27	27	25	22	23
	計	67	68	65	68	63
再生処理業者	資源化量 空き缶	15	12	14	15	15
	古紙類	63	57	78	59	53
	乾電池・蛍光管等	2	2	1	1	1
	計	80	71	93	75	69
資源化量合計		147	139	158	143	132

5) 占冠村

(1) 堆肥化処理

生ごみは富良野広域連合環境衛生センターにて堆肥化処理を行なっています。過去5年間の搬入実績を下記に示します。

表 2-32 堆肥化処理の実績

単位：t/年

区分	平成29年度	平成30年度	令和元年度	令和2年度	令和3年度
生ごみ	310	291	259	152	161

(2) 資源化処理

占冠村では、プラスチック類、ペットボトル、空きびんを富良野生活圏資源回収センターで資源化処理を行なっています。紙類、紙パック、空き缶、鉄類、乾電池・蛍光灯等は再生処理業者へ委託処理しています。

表 2-33 資源化処理の実績

単位：t/年

搬入先	区分	平成29年度	平成30年度	令和元年度	令和2年度	令和3年度
富良野生活圏資源回収センター	資源化量					
	プラスチック	39	43	45	46	45
	ペットボトル	15	15	15	14	15
	空きびん	45	45	46	46	46
	計	99	103	106	106	106
再生処理業者	資源化量					
	紙類	14	14	16	16	15
	紙パック	0	0	0	0	0
	空き缶	7	6	6	6	6
	鉄類	2	2	2	2	2
	乾電池・蛍光灯等	1	1	1	1	1
	計	24	23	25	25	24
資源化量合計		123	126	131	131	130

2.6 最終処分

各市町村最終処分の状況について整理します。

1) 富良野市

富良野市では、陶磁器・ガラス残渣、灰、リサイクル不適物を富良野市富丘一般廃棄物最終処分場にて埋立処分しています。

最終処分場の概要と過去5年間の最終処分の実績を下記に示します。

最終処分場は、平成6年度から埋立を開始しており、令和3年度における残余容量は3,683m³（令和3年度末時点）となっています。現状の埋立量から推測すると、令和10年度頃に埋立満了となることが想定されるため、次期一般廃棄物最終処分場の整備の検討を進める必要があります。

表 2-34 最終処分場の概要

施設名称	富丘一般廃棄物最終処分場
所在地	富良野市西富丘
使用開始	平成6年度
処理対象品目	陶磁器・ガラス残渣、灰、リサイクル不適物
埋立容量	20,600m ³
浸出水処理施設	処理方式：回転円板＋凝集沈殿 処理能力：20m ³ /日 放流水質：BOD 20mg/L 以下、SS 70mg/L 以下

表 2-35 最終処分の実績

単位：t/年

区分	平成29年度	平成30年度	令和元年度	令和2年度	令和3年度
最終処分量	254	268	257	186	196

2) 上富良野町

上富良野町では、中間処理後の不燃性残渣と焼却残渣、不燃ごみを埋立処分しています。

最終処分場の概要と過去5年間の最終処分の実績を下記に示します。

上富良野町の最終処分場は、現状の埋立量から推測すると令和11年度で埋立満了となることが想定されており、次期一般廃棄物最終処分場の整備の検討を進める必要があります。

表 2-36 最終処分場の概要

施設名称	上富良野町クリーンセンター（最終処分場）
所在地	上富良野町1586番地
使用開始	平成8年度
処理対象品目	焼却残渣、中間処理後の不燃性残渣、不燃ごみ
埋立容量	56,400m ³
浸出水処理施設	処理方式：接触ばっき・沈殿法 処理能力：30m ³ /日 放流水質：BOD 20mg/L 以下、SS 70mg/L 以下

表 2-37 最終処分の実績

単位：t/年

区分	平成29年度	平成30年度	令和元年度	令和2年度	令和3年度
最終処分量	662	651	639	654	678

3) 中富良野町

中富良野町では、埋立ごみを埋立処分しています。

最終処分場の概要と過去5年間の最終処分の実績を下記に示します。

中富良野町の最終処分場は、令和4年度において嵩上げ工事を実施しておりますが、嵩上げ後は令和10年度に埋立満了と予定されていることから、次期一般廃棄物最終処分場の整備の検討を進める必要があります。

表 2-38 最終処分場の概要

施設名称	中富良野町一般廃棄物最終処分場
所在地	中富良野町字中富良野 3966-14 番地
使用開始	平成15年度
処理対象品目	埋立ごみ
埋立容量	25,307m ³ (延命化後 33,737m ³)
浸出水処理施設	処理方式：回転円板＋凝集沈殿＋砂ろ過＋消毒 処理能力：20m ³ /日 放流水質：BOD 20mg/L 以下、SS 10mg/L 以下

表 2-39 最終処分の実績

単位：t/年

区分	平成29年度	平成30年度	令和元年度	令和2年度	令和3年度
最終処分量	559	588	605	559	531

4) 南富良野町

南富良野町では、一般ごみと粗大ごみの一部を埋め立て処分しています。

最終処分場の概要と過去5年間の最終処分の実績を下記に示します。

南富良野町の最終処分場は、現状の埋立量から推測すると、令和10年度頃に埋立満了となることが想定されるため、次期一般廃棄物最終処分場の整備の検討を進める必要があります。

表 2-40 最終処分場の概要

施設名称	南富良野町一般廃棄物最終処分場
所在地	南富良野町字幾寅 3313 番地 1・3315 番地 1
使用開始	平成 16 年度
処理対象品目	一般ごみ、粗大ごみの一部
埋立容量	5,800m ³
浸出水処理施設	浸出水は南富良野浄化センターにて処理を行っているため、浸出水処理施設はなし。

表 2-41 最終処分の実績

単位：t/年

区分	平成29年度	平成30年度	令和元年度	令和2年度	令和3年度
最終処分量	89	87	76	72	75

5) 占冠村

占冠村では、占冠村の一般ごみと粗大ごみの一部を埋め立て処分しています。

最終処分場の概要と過去5年間の最終処分の実績を下記に示します。

占冠村の最終処分場は、令和3年度に嵩上げ工事を行い、埋立期間を令和15年度まで延長しています。

表 2-42 最終処分場の概要

施設名称	占冠村一般廃棄物最終処分場
所在地	占冠村下トマム
使用開始	平成 5 年度
処理対象品目	一般ごみ、粗大ごみ、衛生センター不適物、焼却残渣
埋立容量	45,060m ³ （嵩上げ後 63,750m ³ ）
浸出水処理施設	処理方式：回転円板＋凝集沈殿＋砂ろ過＋消毒 処理能力：26m ³ /日 放流水質：BOD 30mg/L 以下、SS 70mg/L 以下

表 2-43 最終処分の実績

単位：t/年

区分	平成29年度	平成30年度	令和元年度	令和2年度	令和3年度
最終処分量	1,281	1,290	1,281	1,276	1,267

2.7 ごみ処理経費

各市町村のごみ処理経費を整理します。

1) 富良野市

富良野市における過去5年間のごみ処理経費の推移を表 2-44、図 2-18 に示します。

令和3年度におけるごみ処理経費は444,451千円で、平成29年度に対して約11%増加しています。

また、人口一人当たりの経費を算出すると、令和3年度は21,902円となっており、平成29年度に対して約20%増加しています。ごみ1トン当たりの経費は、令和3年度において67,188円となっており、平成29年度に対して約21%増加している状況です。

表 2-44 過去5年間のごみ処理経費

区分	単位	平成29年度	平成30年度	令和元年度	令和2年度	令和3年度
人件費	千円	42,042	36,576	35,749	35,315	30,685
収集運搬費	千円	103,562	105,643	115,433	117,518	119,005
処理費	千円	243,760	252,602	282,896	292,239	284,677
その他	千円	10,298	10,096	10,454	9,963	10,084
経費合計	千円	399,662	404,917	444,533	455,034	444,451
行政区内人口	人	21,910	21,535	21,230	20,796	20,293
人口一人当たり経費	円/人	18,241	18,803	20,939	21,881	21,902
ごみ排出量	トン	7,190	7,167	7,039	6,625	6,615
ごみ1トン当たり経費	円/トン	55,586	56,497	63,153	68,684	67,188

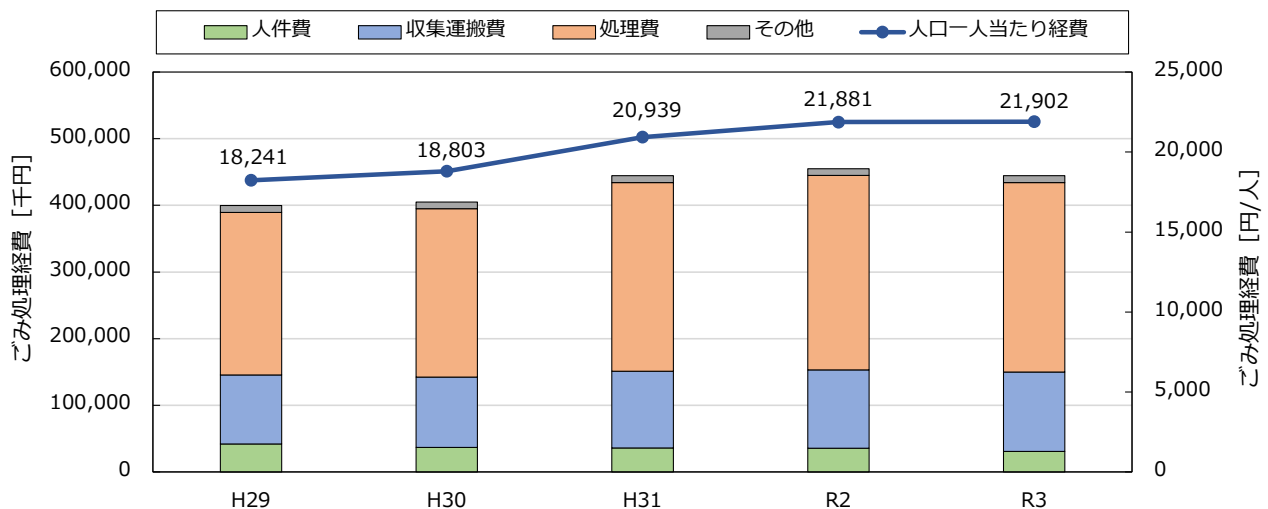


図 2-18 ごみ処理経費の推移

2) 上富良野町

上富良野町における過去5年間のごみ処理経費の推移を表 2-45、図 2-19 に示します。

令和3年度におけるごみ処理経費は280,688千円で、平成29年度に対して約16%増加しています。

また、人口一人当たりの経費を算出すると、令和3年度は27,551円となっており、平成29年度に対して約24%増加しています。ごみ1トン当たりの経費は、令和3年度において90,370円となっており、平成29年度に対して約21%増加している状況です。

表 2-45 過去5年間のごみ処理経費

区分	単位	平成29年度	平成30年度	令和元年度	令和2年度	令和3年度
人件費	千円	26,693	25,378	25,890	21,596	19,492
収集運搬費	千円	55,358	56,561	56,800	57,623	69,412
処理費	千円	67,202	96,585	96,585	71,014	96,398
その他	千円	92,210	81,518	81,518	83,028	95,386
経費合計	千円	241,463	260,042	260,793	233,261	280,688
行政区域内人口	人	10,851	10,639	10,518	10,380	10,188
人口一人当たり経費	円/人	22,253	24,442	24,795	22,472	27,551
ごみ排出量	トン	3,234	3,184	3,148	3,074	3,106
ごみ1トン当たり経費	円/トン	74,664	81,671	82,844	75,882	90,370

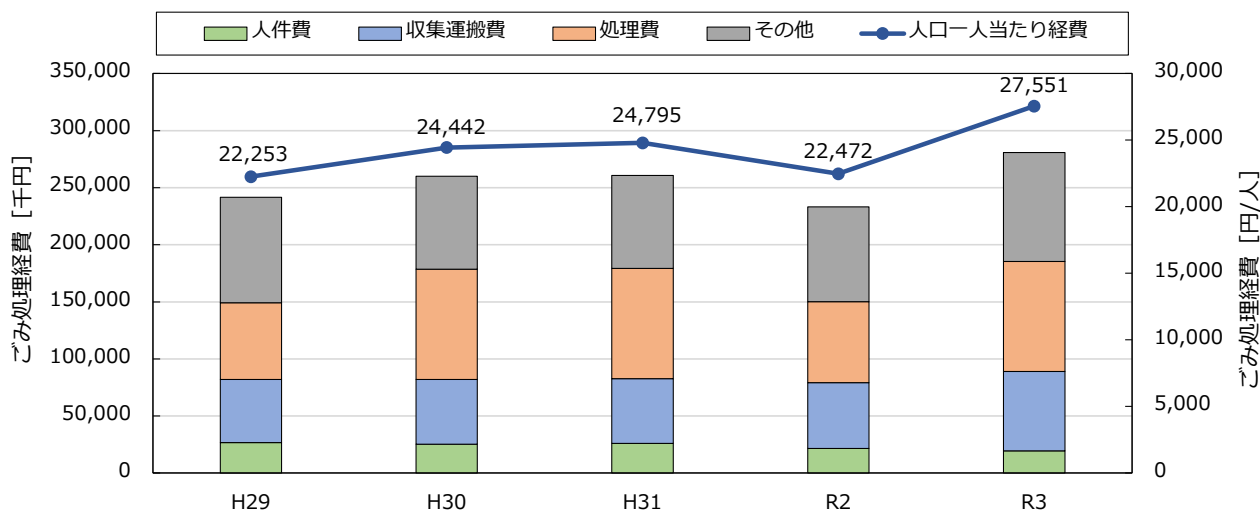


図 2-19 ごみ処理経費の推移

3) 中富良野町

中富良野町における過去5年間のごみ処理経費の推移を表 2-46、図 2-20 に示します。

令和3年度におけるごみ処理経費は68,961千円で、平成29年度に対して約19%増加しています。

また、人口一人当たりの経費を算出すると、令和3年度は14,239円となっており、平成29年度に対して約25%増加しています。ごみ1トン当たりの経費は、令和3年度において57,087円となっており、平成29年度に対して約23%増加している状況です。

表 2-46 過去5年間のごみ処理経費

区分	単位	平成29年度	平成30年度	令和元年度	令和2年度	令和3年度
人件費	千円	13,790	12,841	13,716	13,512	13,399
収集運搬費	千円	18,006	18,567	18,659	18,949	22,137
処理費	千円	8,570	9,384	10,330	13,573	13,123
その他	千円	17,799	23,563	27,660	28,106	20,302
経費合計	千円	58,165	64,355	70,365	74,140	68,961
行政区域内人口	人	5,105	5,063	4,998	4,890	4,843
人口一人当たり経費	円/人	11,394	12,711	14,079	15,162	14,239
ごみ排出量	トン	1,248	1,275	1,290	1,241	1,208
ごみ1トン当たり経費	円/トン	46,607	50,475	54,547	59,742	57,087

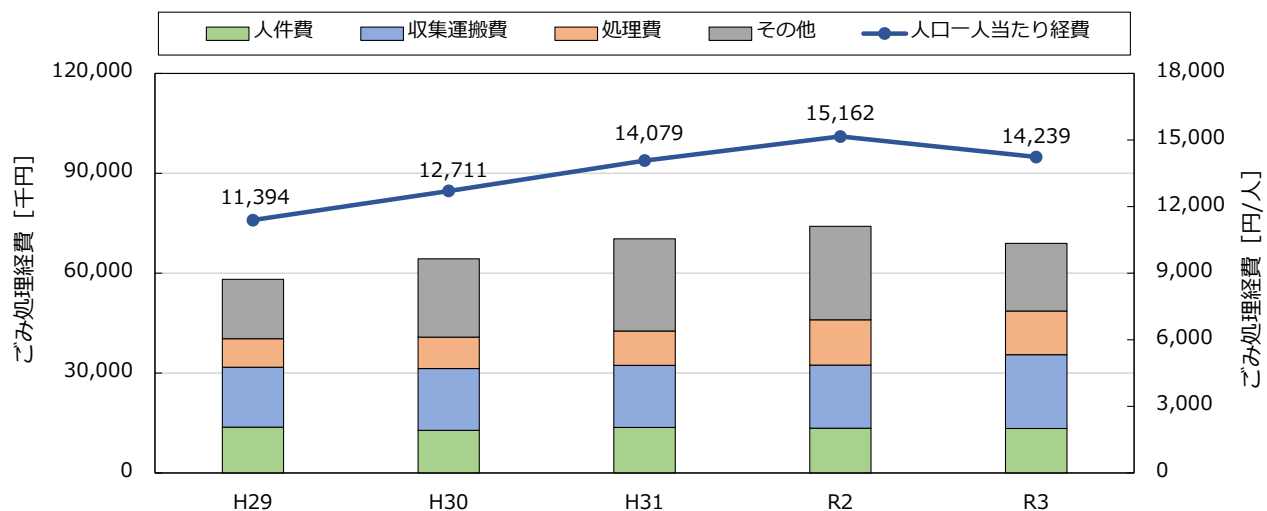


図 2-20 ごみ処理経費の推移

4) 南富良野町

南富良野町における過去5年間のごみ処理経費の推移を表 2-47、図 2-21 に示します。

令和3年度におけるごみ処理経費は54,746千円で、平成29年度に対して約12%増加しています。

また、人口一人当たりの経費を算出すると、令和3年度は23,227円となっており、平成29年度に対して約21%増加しています。ごみ1トン当たりの経費は、令和3年度において71,563円となっており、平成29年度に対して約23%増加している状況です。

表 2-47 過去5年間のごみ処理経費

区分	単位	平成29年度	平成30年度	令和元年度	令和2年度	令和3年度
人件費	千円	0	0	0	0	0
収集運搬費	千円	34,919	35,743	30,488	30,034	30,276
処理費	千円	13,799	14,610	20,335	37,352	24,309
その他	千円	265	155	112	208	161
経費合計	千円	48,983	50,508	50,935	67,594	54,746
行政区域内人口	人	2,560	2,544	2,465	2,404	2,357
人口一人当たり経費	円/人	19,134	19,854	20,663	28,117	23,227
ごみ排出量	トン	885	836	853	798	765
ごみ1トン当たり経費	円/トン	55,348	60,416	59,713	84,704	71,563

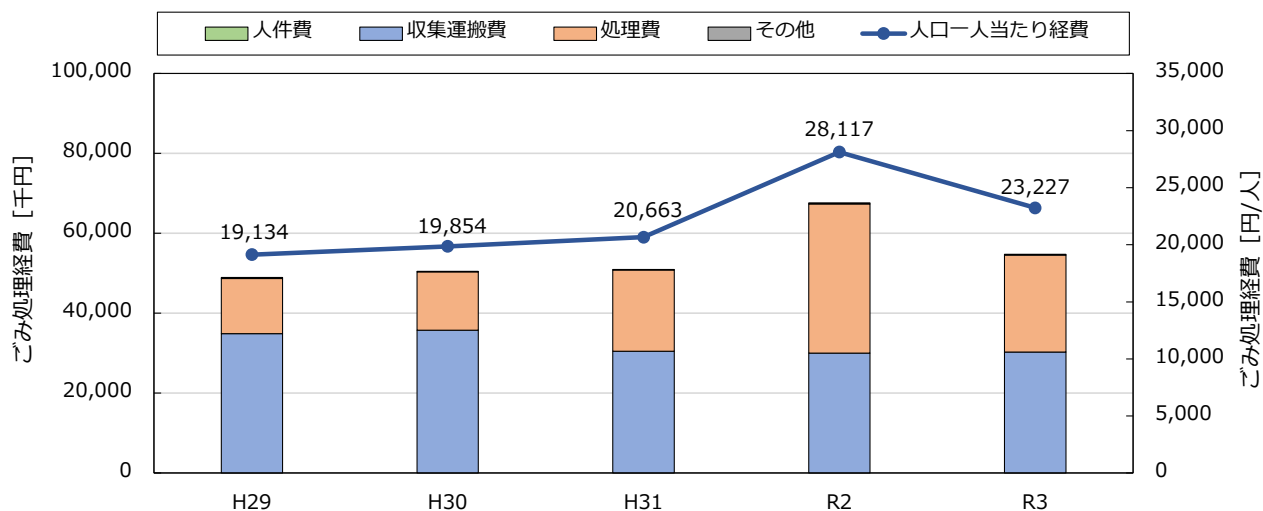


図 2-21 ごみ処理経費の推移

5) 占冠村

占冠村における過去5年間のごみ処理経費の推移を表 2-48、図 2-22 に示します。

令和3年度におけるごみ処理経費は41,140千円で、平成29年度に対して約21%増加しています。ただし、占冠村では令和3年度において最終処分場延命化工事を行っており、工事費を含めると令和3年度のごみ処理経費は286,220千円となり、大きく増加しています。

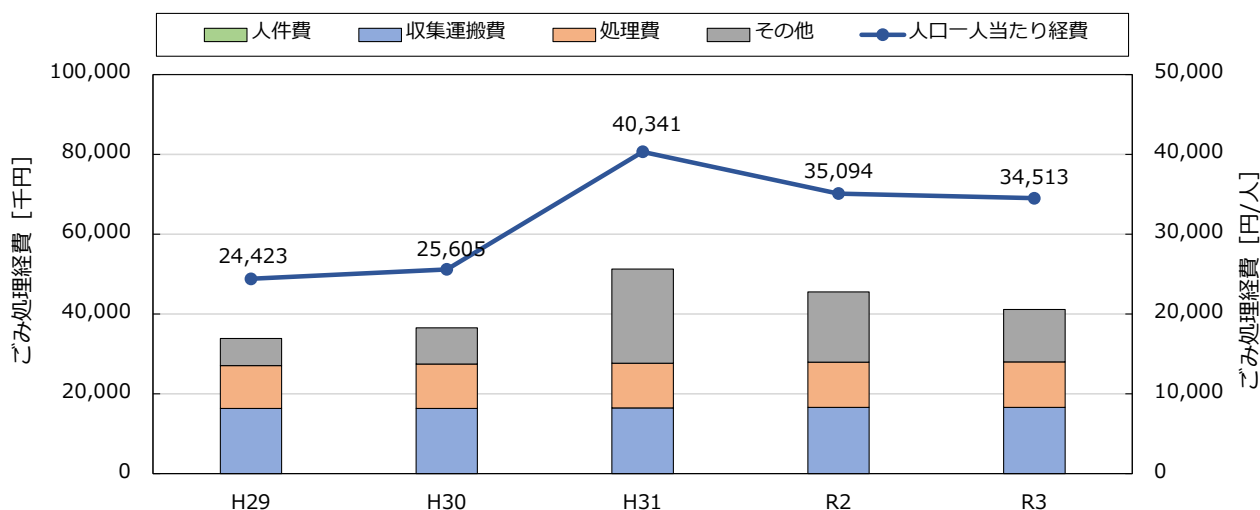
また、人口一人当たりの経費を算出すると、令和3年度は34,513円となっており、平成29年度に対して約41%増加しています。ごみ1トン当たりの経費は、令和3年度において29,054円となっており、平成29年度に対して約36%増加している状況です。

表 2-48 過去5年間のごみ処理経費

区分	単位	平成29年度	平成30年度	令和元年度	令和2年度	令和3年度
人件費	千円	0	0	0	0	0
収集運搬費	千円	16,330	16,330	16,481	16,632	16,632
処理費	千円	10,746	11,139	11,229	11,341	11,365
その他	千円	6,847	9,070	23,563	17,579	13,143
経費合計	千円	33,923	36,539	51,273	45,552	41,140
行政区域内人口	人	1,389	1,427	1,271	1,298	1,192
人口一人当たり経費	円/人	24,423	25,605	40,341	35,094	34,513
ごみ排出量	トン	1,593	1,905	1,933	1,283	1,416
ごみ1トン当たり経費	円/トン	21,295	19,181	26,525	35,504	29,054

※令和3年度におけるごみ処理経費には、最終処分場延命化工事費を含めていません。

図 2-22 ごみ処理経費の推移



2.8 関係市町村におけるごみの排出抑制・減量化の取組

各市町村のごみ排出抑制・減量化の取組は、次のとおりとなっています。

1) 富良野市

- ・ 啓発活動の推進
- ・ 環境美化運動の推進
- ・ 市民や事業者の活動の支援促進
- ・ 粗大ごみ処理券の取扱い手法の改善の検討
- ・ 分別水準の維持、中間処理における効率性、分別排出時の効率性や取扱いやすさのバランスを検討し最適化を図る
- ・ 企業に対し効果的なごみ排出抑制の推進の働きかけ
- ・ 富良野市廃棄物減量推進審議会での議論をはじめ、廃棄物に関する情報収集を行い、効率的な処理方策について検討する

2) 上富良野町

- ・ リデュースの促進として、マイバッグ運動への取組、減量化啓発活動への取組を実施する
- ・ リユースの促進として、不要品を引き取り、必要な人に提供・再利用してもらうリユースフェアの充実を検討する
- ・ リサイクルの推進として、廃食用油の再資源化等の新たな分別品目の検討を行う

3) 中富良野町

- ・ エコバッグ、マイバッグ運動や、資源回収活動の普及・啓発
- ・ スーパー・小売店に対し、レジ袋の削減や過剰包装の自粛、トレイ等の回収促進の呼びかけ
- ・ 行政が物を大切に長く使うことを推進する等、率先して排出抑制対策を実施する
- ・ 環境配慮型製品の周知と啓発
- ・ 必要に応じたごみ処理手数料の見直しの検討
- ・ 食品ロス削減運動の推進
- ・ 生ごみ分別の徹底・普及・啓発
- ・ 観光客がごみを持込みにくい環境を維持・ごみを持込まないように呼びかけ

4) 南富良野町

- ・ リデュースの促進として、マイバッグ運動への取組、減量化啓発活動への取組を実施する
- ・ リユースの促進として、使用済み衣料など新たな分別品目の検討を行う
- ・ リサイクルの推進として、小型電子機器の再資源化を図るとともに、資源ごみの分別徹底を図る

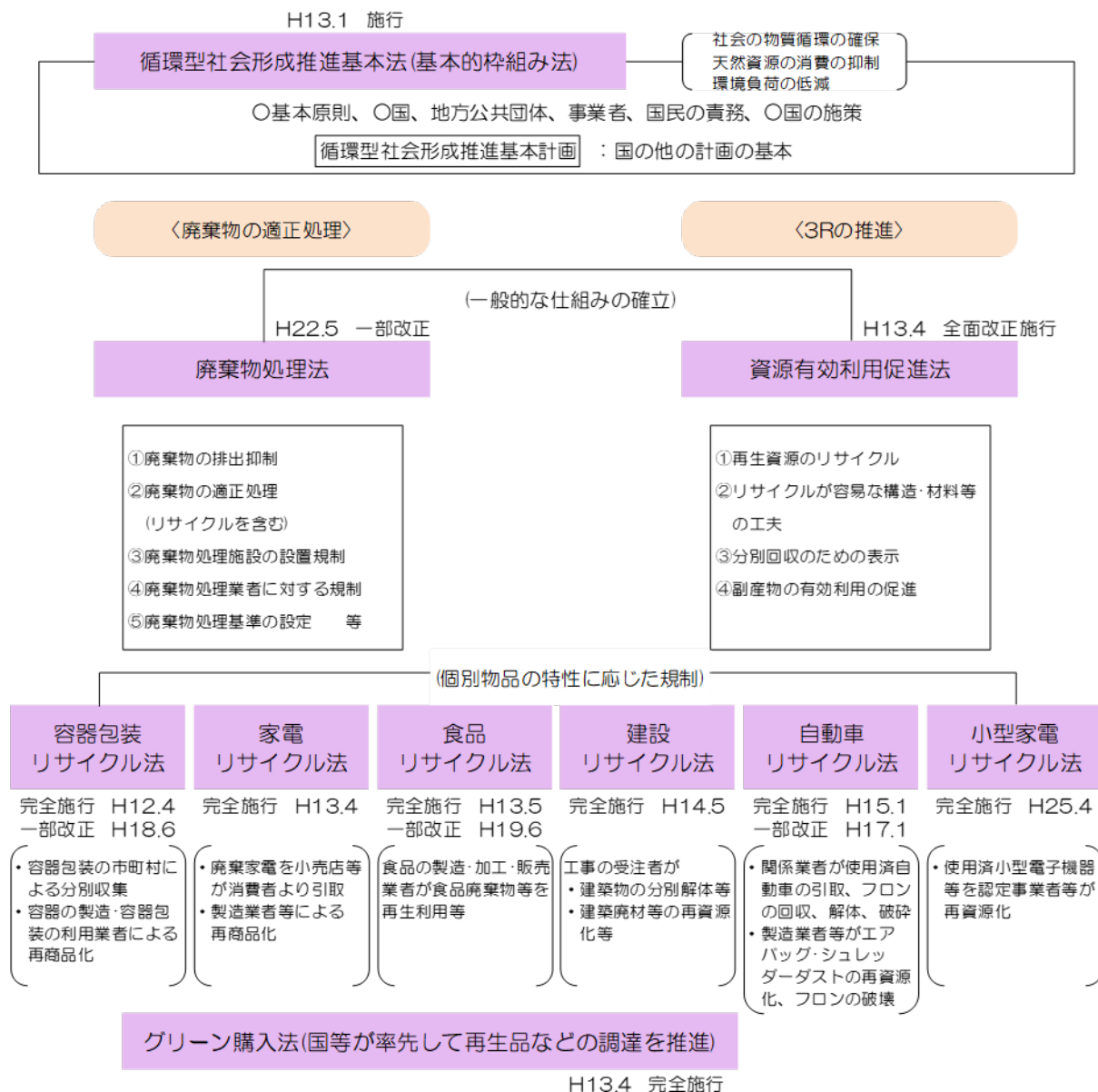
5) 占冠村

- ・ エコバッグ、マイバッグ運動や、「まとめて資源回収活動」の普及・啓発
- ・ スーパー・小売店に対し、レジ袋の削減や過剰包装の自粛、トレイ等の回収促進の呼びかけ
- ・ 行政が物を大切に長く使うことを推進する等、率先して排出抑制対策を実施する
- ・ 環境配慮型製品の周知と啓発
- ・ 食品ロス削減運動の推進
- ・ 生ごみ分別の徹底・普及・啓発
- ・ 観光客がごみを持込みにくい環境を維持・ごみを持込まないように呼びかけ

2.9 ごみ処理関連法令等の動向

1) 循環型社会形成のための法体系

廃棄物・リサイクル対策を総合的かつ計画的に推進するため、平成 12 年に「循環型社会形成推進基本法」が制定されました。図 2-7 に示す法体系のもとで、各法律の改正、施行が行われています。



出典：資源循環ハンドブック2021（経済産業省）

図 2-23 循環型社会形成のための法体系

2) 第四次循環型社会形成推進基本計画

天然資源の消費を抑制し、環境への負荷ができる限り低減される「循環型社会」を形成することを目指し、国は循環型社会形成推進基本法に基づき、平成 30 年 6 月に「第四次循環型社会形成推進基本計画」を策定しました。

表 2-49 第四次循環型社会形成推進基本計画の概要

区 分		概 要
中長期的な方向性	持続可能な社会づくりとの統合的な取組	・誰もが、持続可能な形で資源を利用でき、環境への負荷が地球の環境容量内に抑制され、健康で安全な生活と豊かな生態系が確保された世界 ・環境、経済、社会的側面を統合的に向上
	地域循環共生圏形成による地域活性化	・地域の資源生産性の向上 ・生物多様性の確保 ・低炭素化 ・地域の活性化 ・災害に強いコンパクトで強靱なまちづくり
	ライフサイクル全体での徹底的な資源循環	・第四次産業革命により、「必要なモノ・サービスを、必要な人に、必要な時に、必要なだけ提供する」ことで、ライフサイクル全体で徹底的な資源循環を行う
	適正処理の推進と環境再生	・廃棄物の適正処理（システム、体制、技術の適切な整備） ・地域環境の再生（海洋ごみの解決、不法投棄、空き家等の適正な解体・撤去等） ・震災被災地の環境再生、未来志向の復興創生
	災害廃棄物処理体制の構築	・災害廃棄物の適正・迅速な処理（平時より重層的な廃棄物処理システムの強靱化）
	適正な国際資源循環体制の構築と循環産業の海外展開	・資源効率性が高く、現在及び将来世代の健康で安全な生活と豊かな生態系が確保された世界
	循環分野における基盤整備	・情報基盤の整備・更新、必要な技術の継続的な開発、人材育成 ・多様な主体が循環型社会づくりの担い手であることを自覚して行動する社会
指標及び数値目標 ※（ ）は目標年度	資源生産性	約49万円/t（令和7年度）
	入口側の循環利用率	約18%（令和7年度）
	出口側の循環利用率	約47%（令和7年度）
	最終処分量	約1,300万t（令和7年度）
	循環型社会ビジネスの市場規模	平成12年度の約2倍（令和7年度）
	期間中に整備されたごみ焼却施設の平均発電効率	21%（令和4年度）
	1人1日あたりのごみ排出量	約850g/人・日（令和7年度）
	1人1日あたりの家庭系ごみ排出量	約440g/人・日（令和7年度）
	一般廃棄物最終処分場の残余年数	平成29年度の水準〔20年分〕を維持（令和4年度）
	災害廃棄物処理計画の策定率	都道府県100%、市町村60%（令和7年度）

3) 廃棄物処理基本計画

国は、廃棄物処理法に基づき、「廃棄物の減量その他その適正な処理に関する施策の総合的かつ計画的な推進を図るための基本的な方針（廃棄物処理基本方針）」を定めています。平成28年1月に見直しが行われています。

表 2-50 廃棄物処理基本方針の概要

区 分		概 要
基本的な方向		・世界的な資源制約の顕在化や、地球環境問題への対応 ・低炭素社会や自然共生社会との統合にも配慮した取組の推進
減量化の目標 (令和2年度)	排出量	【一般廃棄物】 平成24年度比約12%削減 【産業廃棄物】 平成24年度に対し増加を約3%に抑制
	再生利用率	【一般廃棄物】 平成24年度約21%から約27%に増加 【産業廃棄物】 平成24年度約55%から約56%に増加
	最終処分量	【一般廃棄物】 平成24年度比約14%削減 【産業廃棄物】 平成24年度比約1%削減
	1人1日あたり家庭系ごみ排出量：500g/人・日	
その他の目標 (平成30年度)	家庭系食品ロスの発生量を把握している市町村数：200市町村（平成25年度43市町村）	
	家電リサイクル法上の小売業者の引き取り義務外品の回収体制構築市町村割合：100%（平成25年度約59%）	
	使用済み小型電子機器等の再生のための回収実施市町村割合：80%（平成25年度約43%）	
施策推進に関する基本的事項	国民の役割	・食品の購入にあたっては、適量の購入等により食品ロスを削減する ・自ら排出する一般廃棄物の排出抑制に取り組むとともに、事業者が排出する一般廃棄物の抑制に協力する ・使用済み小型家電機器等を市町村等へ引き渡す
	市町村の役割	・関係機関との連携体制の構築や、民間事業者の活用に努める ・民間事業者の活用・育成や市町村が自ら行う再生利用等の実施等について、市町村が定める一般廃棄物処理計画において適切に位置づけるよう努める ・他の地方公共団体や関係主体と連携・協働して地域循環圏形成に努める ・災害時における適正かつ円滑・迅速な処理体制を確保
	国の役割	・ポリ塩化ビフェニル廃棄物について、地方公共団体と連携しつつ、確実かつ適正な処理を進めていくものとする ・水銀廃棄物の適正な回収を促進する
	廃棄物の適正処理を確保するための必要な体制	・事業系食品廃棄物に関し、排出事業者が自ら積極的に再生利用を実施しようとする場合に、これを実現できるよう、民間事業者の活用も考慮した上で、適切な選択肢を設ける ・地方公共団体等関係者と連携して、電子マネー使用の促進を図る
廃棄物処理施設の整備に関する基本的事項	今後の要最終処分量と全国的な施設整備の目標	・商品廃棄物の再生利用に係る施設については、他の市町村や民間の廃棄物処理業者とも連携して処理能力の向上に取り組む。 ・焼却施設については、中長期的には焼却されるすべての一般廃棄物について熱回収が図られるように取組を推進していくものとする。
	一般廃棄物の適正な処理に必要な処理施設の整備	・循環型社会形成推進交付金制度も活用し、市町村等の自主性と創意工夫を活かし、資源の有効活用・温室効果ガスの排出抑制に考慮した処理施設の整備を推進する。 ・持続的な污水处理システムの構築に向け、下水道・集落排水施設・浄化槽のそれぞれの特性、経済性等を勘案し効率的な整備・運営管理を推進する。
	産業廃棄物の適正な処理に必要な処理施設の整備	・熱回収施設設置者認定制度等を活用しながら、適正処理の確保を基本としつつ、温室効果ガスの排出抑制に配慮した処理施設の整備を推進する。

4) 廃棄物処理施設整備計画

廃棄物処理施設整備計画は、廃棄物処理法第5条の3の規定に基づき、5年ごとに策定されるものです。

平成30年6月に策定された廃棄物処理施設整備計画では、平成30年度から令和4年度までを計画期間とし、従来から取り組んできた3R・適正処理の推進や気候変動対策、災害対策の強化に加え、地域に新たな価値を創出する廃棄物処理施設の整備について強調しています。また、人口減少等、廃棄物処理をとりまく社会構造の変化に鑑み、廃棄物処理施設の適切な運営に必要なソフト面の施策について定めています。

表 2-51 廃棄物処理施設整備計画の概要

区 分	概 要
基本的理念	■基本原則に基づいた3Rの推進 ■気候変動や災害に対して強靱かつ安全な一般廃棄物処理システムの確保 ■地域の自主性及び創意工夫を活かした一般廃棄物処理施設の整備
重点目標 (平成29年度見込み値からの令和4年度目標)	・ごみのリサイクル率：21% → 27% ・最終処分場の残余年数：平成29年度の水準(20年分)を維持 ・期間中に整備されたごみ焼却施設の発電効率の平均値：19% → 21% ・廃棄物エネルギーを地域を含めた外部に供給している施設の割合：40% → 46% ・浄化槽整備区域内の浄化槽人口普及率：53% → 70% ・浄化槽整備区域内の合併処理浄化槽の基数割合：62% → 76% ・省エネ型浄化槽の導入によるCO₂排出削減量：5万トンCO₂ → 12万トンCO₂
廃棄物処理施設整備及び運営の重点的、効果的かつ効率的な実施のポイント	(1)市町村の一般廃棄物処理システムを通じた3Rの推進 ・食品ロス削減を含めた2Rに関する普及啓発、情報提供及び環境教育・環境学習等により住民及び関連する事業者の自主的な取組を促進する。 ・分別収集の推進及び一般廃棄物の適正な循環の利用に努めた上で、適正な中間処理及び最終処分を行う体制を確保する。 (2)持続可能な適正処理の確保に向けた安定的・効率的な施設整備及び運営 ・廃棄物の広域的な処理や施設集約化を図る。 ・地方公共団体及び民間事業者との連携による施設能力の有効活用や施設間の連携、他のインフラと連携など、地域全体で安定化・効率を図っていく。 ・老朽化した単独処理浄化槽及び公共所有の単独処理浄化槽等の単独転換を推進する。また、浄化槽台帳を活用して単独転換や浄化槽の管理向上を図る。 (3)廃棄物処理システムにおける気候変動対策の推進 ・エネルギー効率の高い施設への更新、小規模の廃棄物処理施設における効果的なエネルギー回収技術の導入等、地域の低炭素化に努める。 ・関係者が連携して地域の廃棄物エネルギーの利活用に関する計画を策定する。 ・浄化槽システム全体の低炭素化を図る。 (4)廃棄物系バイオマスの利活用の推進 ・民間事業者や他の社会インフラ施設等との連携、他の未利用バイオマスとの混合処理、メタンを高効率に回収する施設と廃棄物焼却施設との組合せによるエネルギー回収等、効率的な廃棄物系バイオマスの利活用を進める。 (5)災害対策の強化 ・施設の耐震化、地盤改良、浸水対策等を推進し、地域の防災拠点として電力・熱供給等の役割も期待できる廃棄物処理システムの強靱性を確保する。 (6)地域に新たな価値を創出する廃棄物処理施設の整備 ・地方公共団体、民間事業者、地域住民が施設整備に積極的に参画し、関係主体が一体的に検討できる事業体制を構築するとともに、工業団地・農業団地の造成・誘致事業などと連携を進める。 (7)地域住民等の理解と協力の確保 ・生活環境の保全及び公衆衛生の向上、資源の有効利用、温室効果ガスの排出抑制、災害時の対応、地域振興、雇用創出、環境教育・環境学習等の効果について住民や事業者に対して明確に説明し、理解と協力を得るよう努める。 (8)廃棄物処理施設整備に係る工事の入札及び契約の適正化 ・入札及び契約の透明性・競争性の向上、不正行為の排除の徹底及び公共工事の適正な施工の確保を図るとともに、公共工物品質確保法に基づき、総合評価落札方式の導入を推進する。

5) プラスチックに係る資源循環の促進等に関する法律

海洋プラスチックごみ問題、気候変動問題、諸外国の廃棄物輸入規制強化等への対応を契機として、国内におけるプラスチックの資源循環を一層促進する重要性が高まっています。

国は、プラスチックの資源循環を総合的に推進するため「プラスチック資源循環戦略」（令和元年5月31日）を策定し、「3R+Renewable※」の基本原則と、6つの野心的なマイルストーンを目指すべき方向性として掲げました。

さらに、プラスチック使用製品の設計からプラスチック使用製品廃棄物の処理まで、プラスチックのライフサイクルに関わるあらゆる主体におけるプラスチックの資源循環の取組を促進するための措置を盛り込んだ「プラスチックに係る資源循環の促進等に関する法律」が令和3年6月11日に公布され、令和4年4月1日から施行されました。

※ごみを減らす3通りの方法（Reduce、Reuse、Recycle）を標語にした「3R（スリーアール）」に、従来「ごみ」とされていたものを再生可能な資源に替えることを意味する「Renewable」を加えたもの。

●6つの野心的なマイルストーン

- ①2030年までにワンウェイプラスチックを累積25%排出抑制すること
- ②2025年までにプラスチック製容器包装及び製品のデザインをリユース又はリサイクル可能なデザインにすること
- ③2030年までにプラスチック製容器包装の6割をリユース又はリサイクルすること
- ④2035年までに使用済プラスチックを100%リユース、リサイクル等により有効利用すること
- ⑤2030年までにプラスチックの再生利用を倍増すること
- ⑥2030年までにバイオマスプラスチックを約200万トン導入すること

6) 北海道廃棄物処理計画

北海道は、令和2年3月に「北海道廃棄物処理計画（第5次）」を策定しました。

北海道廃棄物処理計画（第5次）は、令和2年度から令和6年度までの5年間を計画期間とするもので、国の基本方針で示されている「排出抑制」、「適正な循環的利用」、「適正処分の確保」や、この基本方針に即して策定されている「廃棄物処理施設整備計画」に加え、基本計画に示されている「バイオマスの利活用」及び「リサイクル関連産業を中心とした循環型社会ビジネスの振興」を視点としています。

また、「経済的側面や社会的側面にも視野を広げた循環型社会・低炭素社会・自然共生社会づくりの統合的取組」と「地域循環共生圏」の考え方を踏まえ、リデュース、リユースの優先、廃棄物系バイオマスの地域の特性に応じた適正な再生利用、地球温暖化防止・省エネルギー等にも配慮した廃棄物処理施設の整備に向けた取り組みを推進するものです。低炭素社会や自然共生社会と調和し、循環資源を効果的かつ効率的に循環する「地域循環圏の構築」も視点としています。

排出抑制、適正な循環的利用、適正処分の確保、バイオマス利活用において、令和6年度における目標値を以下のように定めています。

表 2-52 北海道廃棄物処理計画（第5次）の目標値

目標区分	指 標	現状 (平成29年度)	目標年度 (令和6年度)
排出抑制に関する 目標	一般廃棄物の排出量	1,873千t	1,700千トン以下 (約10%減)
	一人一日当たりごみ排出量	961g/人・日	900g/人・日以下
	一人一日当たり家庭ごみ排出量	598g/人・日	550g/人・日以下
適正な循環的利用 に関する目標	リサイクル率	24.3%	30%以上
適正処分の確保に に関する目標	最終処分量	316千トン	250千トン以下 (約20%減)
バイオマスの利活用 に関する目標	廃棄物系バイオマス利活用率 (排出量ベース(炭素換算量))	89.8% (平成28年度)	90%以上 (令和4年度)

2.10 ごみ処理における課題

関係市町村のごみ処理の現状や国・北海道の計画を踏まえ、本圏域におけるごみ処理の課題を整理します。

1) ごみの排出抑制

関係市町村における過去5年間のごみ総排出量原単位は、市町村ごとに大きく差があるものの、横ばい傾向で推移しています。図 2-24 に示す全国の人口規模別のごみ排出量原単位と比較すると、市町村ごとに差はあるものの、本圏域は比較的減量の進んだ地域と言えますが、もう少しごみ減量の余地があると考えます。

各市町村がごみの排出抑制に取組み、住民や事業者のごみ排出抑制に関する意識を高め、今後のごみ排出量削減の推進が必要です。

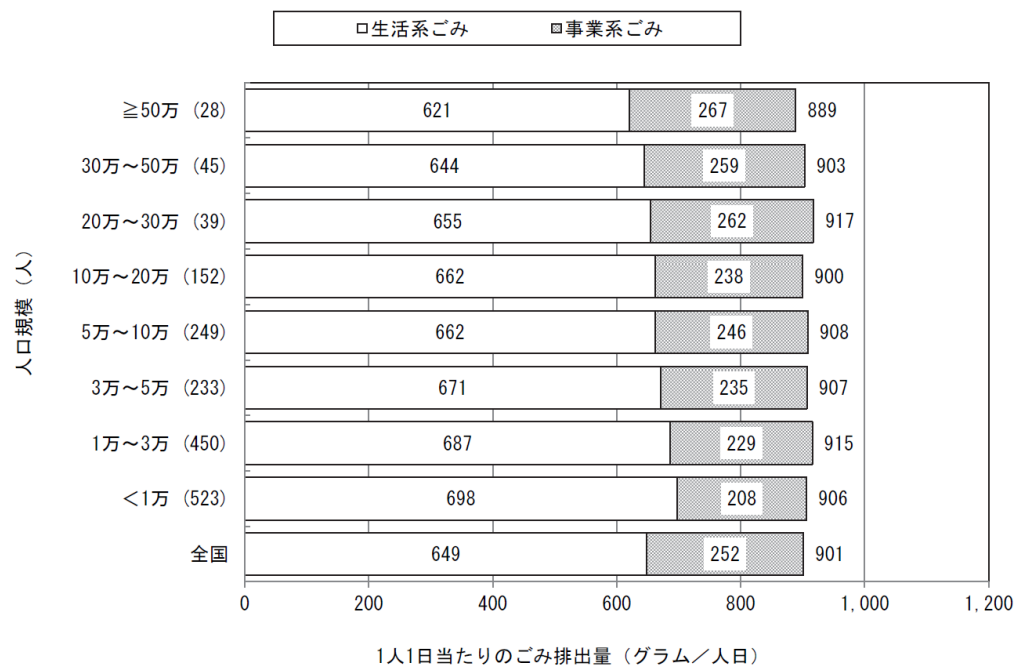


図 2-24 全国の人口規模別ごみ排出量原単位

出典：日本の廃棄物処理（令和2年度版）

2) リサイクル

関係市町村では、生ごみは堆肥化、資源ごみの分別収集、小型家電のリサイクル等により資源化に取り組んでいます。今後とも分別を徹底し、資源化に推進していきます。

富良野生活圏資源回収センターは、施設稼働から20年以上が経過し、令和3年度には大規模修繕を行い、延命化を図っているところです。今後も修繕費の増加が見込まれることから、広域での施設整備を含めて検討する必要があります。また、令和4年4月から施行された「プラスチックに係る資源循環の促進等に関する法律」を踏まえ、容器包装以外のプラスチック類の処理について今後検討していく必要があります。

3) 中間処理

富良野市の固形燃料化施設、上富良野町クリーンセンターでは、施設稼働から 20 年以上が経過し、修繕を行いながら処理を継続している状況です。今後、広域での処理を含めた施設整備の検討・協議が必要です。

4) 最終処分

関係市町村の最終処分場の多くは、令和 10 年度頃に埋立満了と推定されています。そのため、次期最終処分場の施設整備に向けた計画・準備を進める必要があります。

あわせて、最終処分量を削減するため、ごみの減量化を推進し、ごみの分別方法や中間処理方法を含めた検討を行っていく必要があります。

5) 広域処理に係る課題

各市町村における課題は、広域処理に係る課題でもあります。本圏域全体でごみの排出抑制や資源化に取り組んでいく場合、本圏域を構成する関係市町村のごみの分別品目の統一や処理の広域化の検討は重要であると考えられます。

特にごみの分別は、最終処分量の削減やリサイクル率の向上にも寄与することから、今後、広域圏内の分別品目の統一を検討していきます。

3 広域分担処理の取組

3.1 広域分担処理の設置状況

現在の広域分担処理施設の設置状況を下記に示します。

表 3-1 広域分担処理施設の設置状況

設置市町村	施設名称	処理品目
富良野市	富良野広域連合環境衛生センター	生ごみ、し尿・浄化槽汚泥
上富良野町	上富良野町クリーンセンター	衛生用品、粗大ごみ
中富良野町	富良野生活圏資源回収センター	プラスチック類、ペットボトル、空きびん
南富良野町	南富良野町小動物焼却施設	動物死体
占冠村	占冠村一般廃棄物最終処分場	衛生センター不適物、動物死体焼却灰

3.2 広域分担処理施設の概要

広域処理分担の処理実績は、次のとおりとなっています。

1) 富良野広域連合環境衛生センター（富良野市）

富良野広域連合環境衛生センターでは、富良野市、上富良野町、中富良野町、南富良野町、占冠村からのし尿・浄化槽汚泥と生ごみを受入れ、処理を行なっています。

施設概要を表 3-2、処理フローを図 3-1 に示します。

表 3-2 富良野広域連合環境衛生センターの概要

施設名称	富良野広域連合環境衛生センター
所在地	富良野市字上五区
使用開始	平成 15 年 4 月
処理対象品目	し尿・浄化槽汚泥・生ごみ
処理能力	し尿 46kL/日、浄化槽汚泥 14kL/日、生ごみ 22t/日
処理方式	水処理設備 標準脱窒素処理方式＋高度処理 堆肥化設備 高速堆肥化処理方式

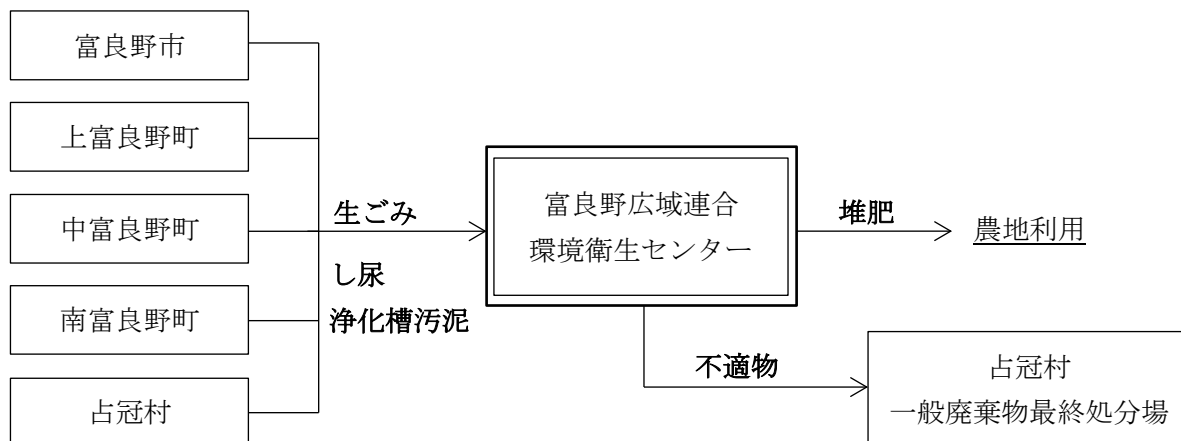


図 3-1 広域分担処理フロー

2) 上富良野町クリーンセンター（上富良野町）

上富良野町クリーンセンターでは、富良野市、中富良野町からの衛生用品、南富良野町からの一般ごみ（可燃）を受入れて焼却処理を行なっています。また、中富良野町からの粗大ごみについて破碎処理を行なっています。施設の概要を表 3-3、処理フローを図 3-2 に示します。

表 3-3 上富良野町クリーンセンターの概要

施設名称	上富良野町クリーンセンター
所在地	上富良野町 1586 番地
使用開始	平成 11 年 4 月
処理対象品目	可燃ごみ、不燃ごみ、空きかん、空きびん、ペットボトル、紙類、蛍光灯、乾電池、粗大ごみ
処理能力	焼却施設 15.0t/日（7.5t/日×2 炉） リサイクル施設 破碎設備 3.7t/5h、資源化設備 1.2 t /5h

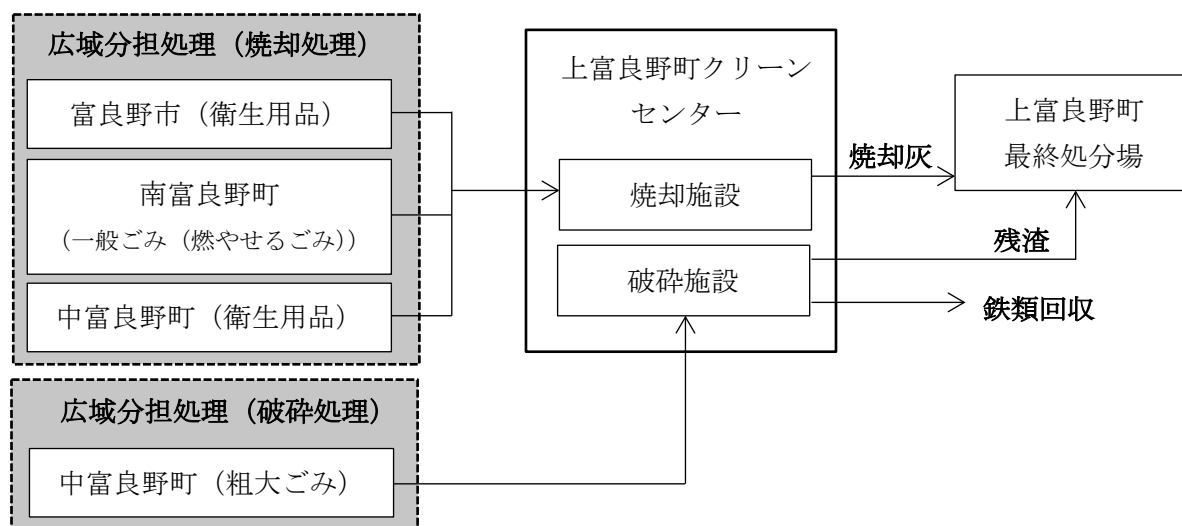


図 3-2 広域分担処理フロー

3) 富良野生活圏資源回収センター（中富良野町）

富良野生活圏資源回収センターでは、プラスチック、ペットボトル、びんを対象に収集処理を行っています。プラスチックは富良野生活圏を構成するすべての自治体分を処理していますが、ペットボトルとびんについては、上富良野町以外の 4 市町村分を処理しています。施設の概要を表 3-4、処理フローを図 3-3 に示します。

表 3-4 富良野生活圏資源回収センターの概要

施設名称	富良野生活圏資源回収センター
所在地	中富良野町字中富良野吉井農場
使用開始	平成 15 年 4 月
処理対象品目	プラスチック、ペットボトル、空きびん
処理能力	圧縮梱包設備 ペットボトル 300kg/h、プラスチック 760kg/h

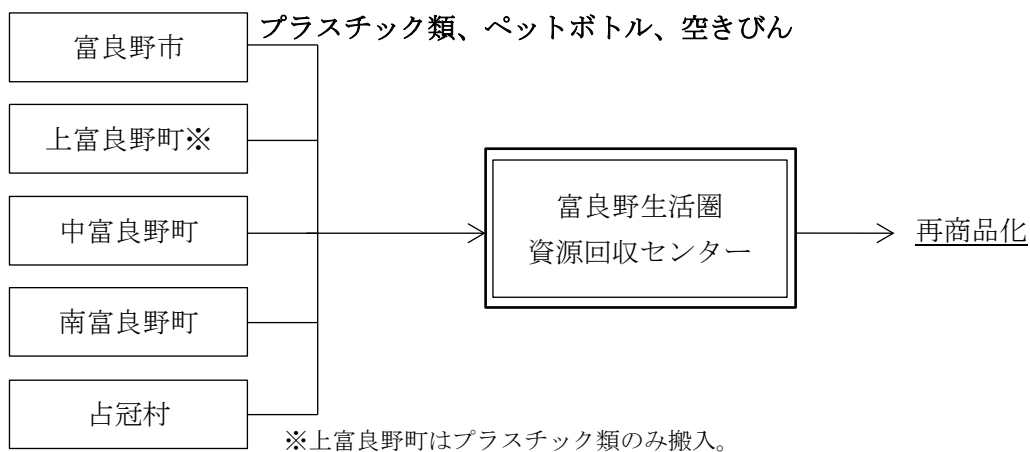


図 3-3 広域分担処理のフロー

4) 南富良野町小動物焼却施設（南富良野町）

南富良野町小動物焼却施設では、富良野市、中富良野町、南富良野町、占冠村からの小動物死体を焼却処理しています。施設の概要を表 3-5、処理フローを図 3-4 に示します。

表 3-5 南富良野町小動物焼却施設の概要

施設名称	南富良野町小動物焼却施設
所在地	南富良野町字幾寅 3315 番地 1
使用開始	昭和 16 年 4 月
処理対象品目	小動物死体
処理能力	150kg/h
排ガス処理方式	再燃焼及び乾式集塵

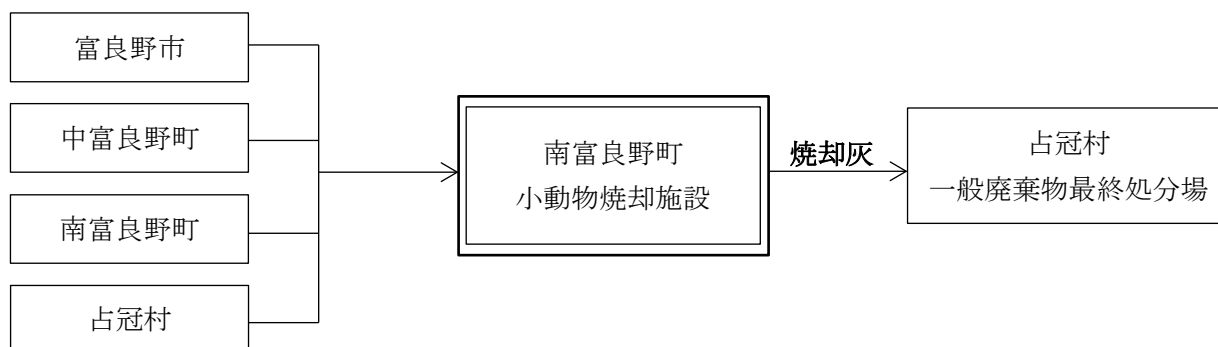


図 3-4 広域分担処理のフロー

5) 占冠村一般廃棄物最終処分場（占冠村）

占冠村一般廃棄物最終処分場では、富良野広域連合環境衛生センターからの不適物と南富良野町小動物焼却施設からの焼却灰を受入れ、埋立処分しています。施設の概要を表 3-6、処理フローを図 3-5 に示します。

表 3-6 占冠村一般廃棄物最終処分場の概要

施設名称	占冠村一般廃棄物最終処分場
所在地	占冠村下トマム
埋立開始	平成 5 年度
処理対象品目	可燃ごみ、不燃ごみ、粗大ごみ、衛生センター不適物、焼却残渣)
埋立容量	63,750m ³
浸出水処理施設	処理方式 回転円板＋凝集沈殿 処理能力 26m ³ /日 放流水質 BOD 30mg/L 以下、SS 70mg/L 以下

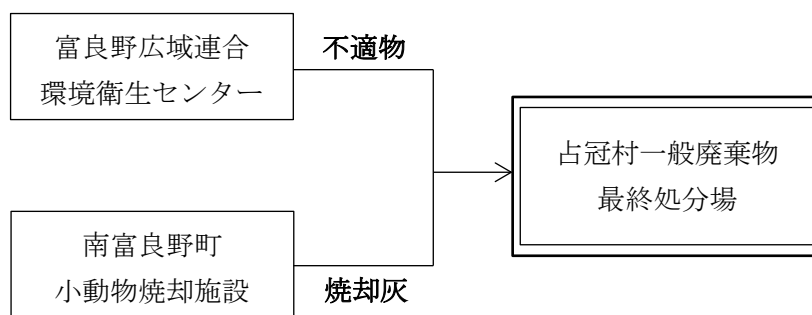


図 3-5 広域分担処理のフロー

3.3 広域分担処理の実績

広域分担処理の実績は以下のとおりです。

1) 富良野広域連合環境衛生センター

過去 5 年間の処理実績は以下のとおりです。生ごみの処理量は、平成 29 年度以降横ばいでしたが、令和 2 年度以降では減少しています。

表 3-7 生ごみ処理実績

単位：t/年

区分		平成29年度	平成30年度	令和元年度	令和2年度	令和3年度
生ごみ	富良野市	2,240	2,210	2,196	1,915	1,909
	上富良野町	621	632	627	551	527
	中富良野町	312	298	310	295	284
	南富良野町	224	201	198	178	167
	占冠村	310	291	259	152	161
	計	3,707	3,632	3,590	3,091	3,048
堆肥生成量	富良野市	351	374	508	397	361
	上富良野町	98	107	145	117	102
	中富良野町	49	50	71	65	56
	南富良野町	35	34	46	38	34
	占冠村	41	49	60	32	31
	計	574	614	830	649	584
衛生センター 不適物	富良野市	98	109	90	45	55
	上富良野町	27	31	26	13	15
	中富良野町	14	15	13	7	8
	南富良野町	10	10	8	4	5
	占冠村	13	14	10	4	4
	計	162	179	147	73	87

※令和元年度の不適物量の内8tは富良野市の固形燃料化施設で試験使用しています。

※令和2年度の不適物量の内5tは富良野市の固形燃料化施設で試験使用しています。

2) 上富良野町クリーンセンター

過去5年間の処理実績は、以下の通りです。焼却処理量は約2,700t/年、破碎処理量は約160t/年前後で推移しています。

表 3-8 焼却処理・破碎処理の実績

単位：t/年

区分			平成29年度	平成30年度	令和元年度	令和2年度	令和3年度
焼却処理	衛生用品	富良野市	511	504	498	500	487
	衛生用品	中富良野町	101	110	109	103	103
	可燃ごみ	南富良野町	425	408	422	406	391
	(広域分) 計		1,037	1,022	1,029	1,009	981
	焼却処理量 計		2,755	2,706	2,706	2,691	2,686
破碎処理	粗大ごみ	中富良野町	29	32	35	41	39
	破碎処理量 計		140	131	162	162	179

3) 富良野生活圏資源回収センター

過去5年間の処理実績は以下のとおりです。プラスチック、ペットボトルの処理量はほぼ横ばいで推移しており、空きびんの処理量は直近2年間でほぼ横ばいで推移しています。

表 3-9 プラスチック・ペットボトル・空きびんの処理実績

単位：t/年

区分		平成29年度	平成30年度	令和元年度	令和2年度	令和3年度
プラスチック類	富良野市	193	270	291	297	305
	上富良野町	44	47	50	52	54
	中富良野町	50	54	53	51	51
	南富良野町	26	27	27	26	26
	占冠村	18	38	53	45	49
	計	331	436	474	471	485
ペットボトル	富良野市	124	126	127	116	121
	中富良野町	22	23	23	20	23
	南富良野町	14	14	13	20	14
	占冠村	21	20	21	12	14
	計	181	183	184	168	172
空きびん	富良野市	301	293	281	240	237
	中富良野町	57	55	52	44	43
	南富良野町	27	27	25	22	23
	占冠村	51	58	62	34	47
	計	436	433	420	340	350

4) 南富良野町小動物焼却施設

過去5年間の処理実績は以下の通りです。処理量はほぼ横ばいで推移しています。

表 3-10 焼却処理の実績

単位：t/年

区分		平成29年度	平成30年度	令和元年度	令和2年度	令和3年度
動物死体	富良野市	2	2	2	3	3
	中富良野町	1	1	1	2	1
	南富良野町	2	3	3	2	2
	占冠村	1	2	2	2	2
	計	6	8	8	9	8

5) 占冠村一般廃棄物最終処分場

過去5年間の広域分担処理の実績は次のとおりです。

表 3-11 衛生センター不適物・動物死体焼却灰の処理実績

単位：t/年

区分		平成29年度	平成30年度	令和元年度	令和2年度	令和3年度
衛生センター不適物		162	179	139	68	87
動物死体焼却灰		1	1	1	1	1
最終処分量(広域分)		163	180	140	69	88
埋立ごみ	占冠村	1,174	1,482	1,509	991	1,037
最終処分量合計		1,312	1,674	1,709	1,096	1,180

3.4 広域分担処理に係る取組状況

第一次計画を含め、広域分担処理に係る取組状況を整理します。

令和3年度における広域分担処理に係る取組状況は次のとおりです。

表 3-12 広域分担処理に係る取組状況

区分	取組状況
空き缶・空きびん	・ 空き缶の処理は、各市町村で単独処理を行っています。 ・ 空きびんの処理は、容器包装リサイクル法に基づき、中富良野町に富良野生活圏資源回収センターを共同整備し、平成15年度から富良野市、中富良野町、南富良野町、占冠村が共同処理を行っています。上富良野町は単独処理を行なっています。
ペットボトル	・ 容器包装リサイクル法に基づき、中富良野町に富良野生活圏資源回収センターを共同整備し、平成15年度から富良野市、中富良野町、南富良野町、占冠村が共同処理を行っています。上富良野町は単独処理を行なっています。
プラスチック類	・ 容器包装リサイクル法に基づき、中富良野町に富良野生活圏資源回収センターを共同整備し、平成15年度から富良野市、上富良野町、中富良野町、南富良野町、占冠村が共同処理を行っています。
可燃ごみ	・ 富良野市は単独処理で固形燃料化を行っています。 ・ 南富良野町は平成20年度より上富良野町クリーンセンターにおいて可燃ごみを上富良野町と共同処理（焼却）しています。中富良野町、占冠村は単独処理（埋立）を行っています。
不燃ごみ	・ 各市町村で単独処理を行っています。
粗大ごみ	・ 平成15年度から中富良野町が上富良野町クリーンセンターに搬入し、共同処理を行っています。富良野市、南富良野町、占冠村は単独処理を行っています。
衛生用品	・ 平成14年度から富良野市と南富良野町、平成15年度から中富良野町の衛生用品を上富良野町クリーンセンターで共同処理をしています。
小型電子機器	・ 小型家電リサイクル法に基づき、各市町村で小型電子機器を回収、再資源化しています。
動物死体	・ 平成16年度から富良野市、中富良野町、南富良野町、占冠村の動物死体を南富良野町小動物焼却施設で共同処理を行っています。
生ごみ	・ 平成15年度より汚泥再生処理センターを整備し、生ごみ及びし尿・浄化槽汚泥の共同処理を行っています。
最終処分場の共同利用	・ 平成15年度から占冠村の最終処分場を共同利用し、環境衛生センターから出る不適物の処分を行っています。

4 ごみ排出量の見込み

今後のごみ処理施策を検討する上で、ごみの排出量の予測は重要な要素です。ごみの排出量の推計には、過去 5 年間の実績データを基に推移を検討し、「家庭系ごみ」と「事業系ごみ」に区分して総排出量を推計します。

4.1 将来人口の推計

ごみ排出量の推計に必要な将来人口の推計については、各市町村の総合計画等の上位計画に基づき設定します。推計値が示されていない年度については、直線補間して算出します。

計画期間における各市町村の将来人口は以下のとおりです。計画目標年次である令和 14 年度における富良野生活圏の人口は 34,460 人と推計されます。

表 4-1 各市町村の将来人口

単位：人

年度	富良野生活圏	富良野市	上富良野町	中富良野町	南富良野町	占冠村	備考
平成29年度	41,815	21,910	10,851	5,105	2,560	1,389	実績
平成30年度	41,208	21,535	10,639	5,063	2,544	1,427	
令和元年度	40,482	21,230	10,518	4,998	2,465	1,271	
令和2年度	39,768	20,796	10,380	4,890	2,404	1,298	
令和3年度	38,873	20,293	10,188	4,843	2,357	1,192	
令和4年度	38,637	20,237	10,077	4,814	2,330	1,179	推計
令和5年度	38,409	20,181	9,967	4,784	2,304	1,173	
令和6年度	38,181	20,125	9,856	4,755	2,277	1,168	
令和7年度	37,951	20,069	9,745	4,725	2,250	1,162	
令和8年度	37,449	19,775	9,626	4,673	2,219	1,156	
令和9年度	36,949	19,481	9,507	4,622	2,188	1,151	
令和10年度	36,448	19,188	9,387	4,570	2,158	1,145	
令和11年度	35,948	18,894	9,268	4,519	2,127	1,140	
令和12年度	35,446	18,600	9,149	4,467	2,096	1,134	
令和13年度	34,953	18,309	9,029	4,420	2,067	1,128	
令和14年度	34,460	18,018	8,909	4,372	2,039	1,122	

※富良野市の将来人口は「第6次富良野市総合計画【前期基本計画】（令和2年4月策定）」の数値を採用しています。

※上富良野町の将来人口は「第2期上富良野町人口ビジョン（令和2年2月策定）」の数値を採用しています。

※中富良野町の将来人口は「第2期中富良野町地域総合戦略（令和3年3月策定）」の数値を採用しています。

※南富良野町の将来人口は「南富良野町人口ビジョン（平成28年3月策定）」の数値を採用しています。

※占冠村の将来人口は「第2期占冠村まち・ひと・しごと創生総合戦略（令和2年3月策定）」の数値を採用しています。

4.2 ごみ原単位の設定

原単位は、各市町村の過去5年間の家庭系ごみ原単位、事業系ごみ原単位の実績を勘案して設定します。各市町村の共通の傾向として、直近2年間において家庭系ごみ原単位は増加、事業系ごみ原単位は減少しており、これらは新型コロナウイルス禍の影響と考えられます。今後、新型コロナウイルスの流行が落ち着き、観光客数が戻ることが見込まれますが、新型コロナウイルス禍以前の水準まで戻るかどうかは不透明です。

したがって、家庭系ごみ原単位と事業系ごみ原単位ともに、過去5年間の平均値で設定することとします。

表 4-2 各市町村のごみ原単位

区分			平成29年度	平成30年度	令和元年度	令和2年度	令和3年度	5年間平均
富良野市	行政区域内人口（人）		21,910	21,535	21,230	20,796	20,293	
	ごみ排出量 （t/年）	家庭系ごみ	4,926	4,819	4,772	4,819	4,692	
		事業系ごみ	2,260	2,343	2,262	1,804	1,915	
	家庭系ごみ原単位（g/人・日）		616	613	614	635	633	622
	事業系ごみ原単位（g/人・日）		283	298	291	238	259	274
上富良野町	行政区域内人口（人）		10,851	10,639	10,518	10,380	10,188	
	ごみ排出量 （t/年）	家庭系ごみ	2,435	2,444	2,507	2,501	2,522	
		事業系ごみ	800	742	643	576	584	
	家庭系ごみ原単位（g/人・日）		615	629	651	660	678	647
中富良野町	行政区域内人口（人）		5,105	5,063	4,998	4,890	4,843	
	ごみ排出量 （t/年）	家庭系ごみ	1,151	1,146	1,174	1,165	1,113	
		事業系ごみ	173	207	192	147	162	
	家庭系ごみ原単位（g/人・日）		618	620	642	653	630	633
南富良野町	行政区域内人口（人）		2,560	2,544	2,465	2,404	2,357	
	ごみ排出量 （t/年）	家庭系ごみ	779	726	769	713	682	
		事業系ごみ	107	110	84	85	83	
	家庭系ごみ原単位（g/人・日）		834	782	852	813	793	815
占冠村	行政区域内人口（人）		1,389	1,427	1,271	1,298	1,192	
	ごみ排出量 （t/年）	家庭系ごみ	694	713	760	645	626	
		事業系ごみ	899	1,193	1,173	639	790	
	家庭系ごみ原単位（g/人・日）		1,369	1,369	1,634	1,361	1,439	1,434
	事業系ごみ原単位（g/人・日）		1,773	2,290	2,522	1,349	1,816	1,950

4.3 ごみ排出量の推計

富良野生活圏におけるごみ排出量は、各市町村の将来人口及びごみ排出原単位を乗じることで算出します。各市町村におけるごみ排出量の推計結果は次のとおりです。

1) 富良野市

令和4年度以降、目標年次までごみ総排出量原単位は896g/人・日で推移し人口減少とともにごみ排出量も減少します。目標年次において、一般ごみを除いたごみ排出量は5,893t/年と推計されます。

表 4-3 富良野市のごみ排出量の推計

	単位	R4	R5	R6	R7	R8	R9	R10	R11	R12	R13	R14
行政区域内人口	人	20,237	20,181	20,125	20,069	19,775	19,481	19,188	18,894	18,600	18,309	18,018
家庭系ごみ排出量	t/年	4,594	4,594	4,569	4,556	4,490	4,435	4,356	4,290	4,223	4,168	4,091
事業系ごみ排出量	t/年	2,024	2,024	2,013	2,007	1,978	1,954	1,919	1,890	1,860	1,836	1,802
ごみ総排出量	t/年	6,618	6,618	6,582	6,563	6,468	6,389	6,275	6,180	6,083	6,004	5,893
ごみ総排出量原単位	g/人・日	896	896	896	896	896	896	896	896	896	896	896
区 分 別 内 訳	生ごみ	t/年	1,997	1,997	1,987	1,981	1,952	1,928	1,894	1,865	1,836	1,779
	枝草類	t/年	464	464	461	460	453	448	440	433	427	413
	固形燃料ごみ	t/年	2,239	2,239	2,228	2,221	2,188	2,163	2,123	2,091	2,059	1,993
	ペットボトル	t/年	117	117	116	116	115	113	111	109	108	105
	プラスチック類	t/年	258	258	257	256	253	249	245	242	237	231
	空き缶・金属類	t/年	152	152	151	150	148	146	144	142	139	135
	空きびん	t/年	258	258	256	256	252	249	244	240	237	229
	陶磁器・ガラス	t/年	84	84	83	83	82	81	80	78	77	74
	乾電池類・蛍光管等	t/年	9	9	9	9	9	9	9	9	8	8
	新聞・雑誌類	t/年	339	339	338	337	332	328	322	317	312	303
	大型ごみ・電気製品	t/年	74	74	73	73	72	71	70	69	68	65
	衛生用品	t/年	597	597	594	592	583	575	565	557	548	531
	灰	t/年	28	28	27	27	27	27	26	26	25	25
	動物死体	t/年	2	2	2	2	2	2	2	2	2	2
	計	t/年	6,618	6,618	6,582	6,563	6,468	6,389	6,275	6,180	6,083	5,893
	★一般ごみ	t/年	5	5	5	5	5	4	4	4	4	4
	(一般ごみを含めた合計)	t/年	6,623	6,623	6,587	6,568	6,473	6,393	6,279	6,184	6,087	5,897

※一般ごみは環境美化・不法投棄ごみ。

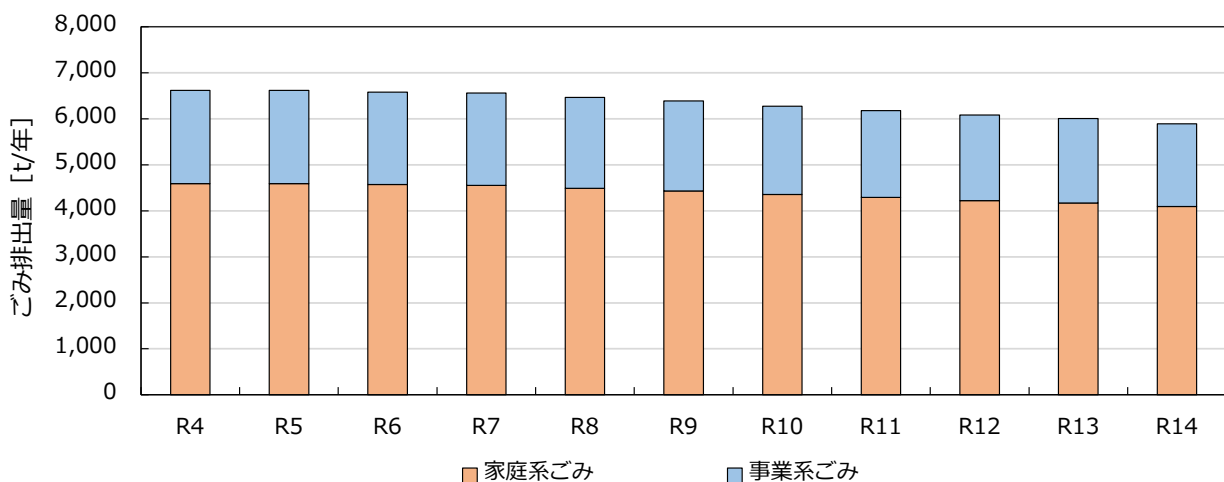


図 4-1 富良野市のごみ排出量の推計

2) 上富良野町

令和4年度以降、目標年次までごみ総排出量原単位は821g/人・日で推移し、人口減少とともにごみ排出量も減少します。目標年次において、ごみ総排出量は2,670t/年と推計されます。

表 4-4 上富良野町のごみ排出量の推計

	単位	R4	R5	R6	R7	R8	R9	R10	R11	R12	R13	R14
行政区域内人口	人	10,077	9,967	9,856	9,745	9,626	9,507	9,387	9,268	9,149	9,029	8,909
家庭系ごみ排出量	t/年	2,380	2,360	2,328	2,301	2,273	2,251	2,217	2,189	2,161	2,138	2,104
事業系ごみ排出量	t/年	640	635	626	619	611	605	596	589	581	575	566
ごみ総排出量	t/年	3,020	2,995	2,954	2,920	2,884	2,856	2,813	2,778	2,742	2,713	2,670
ごみ総排出量原単位	g/人・日	821	821	821	821	821	821	821	821	821	821	821
区分別内訳	一般ごみ	t/年	1,659	1,646	1,621	1,604	1,585	1,568	1,545	1,526	1,505	1,465
	不燃ごみ	t/年	227	225	222	219	217	214	211	209	206	201
	粗大ごみ	t/年	115	114	112	111	110	109	107	106	105	102
	空き缶	t/年	56	55	55	53	53	53	52	51	51	49
	空きびん	t/年	98	97	96	95	93	93	91	90	89	87
	ペットボトル	t/年	53	53	53	52	52	51	51	49	49	48
	プラスチック類	t/年	48	47	47	46	45	45	44	44	43	42
	生ごみ	t/年	565	561	553	547	540	535	527	520	514	500
	廃食用油	t/年	2	2	2	2	2	2	2	2	2	2
	布類	t/年	2	2	2	2	2	2	2	2	2	2
	小型家電	t/年	12	12	12	12	11	11	11	11	11	11
	紙類	t/年	179	177	175	173	170	169	166	164	162	158
	乾電池・蛍光灯等	t/年	4	4	4	4	4	4	4	4	3	3
	計	t/年	3,020	2,995	2,954	2,920	2,884	2,856	2,813	2,778	2,742	2,670

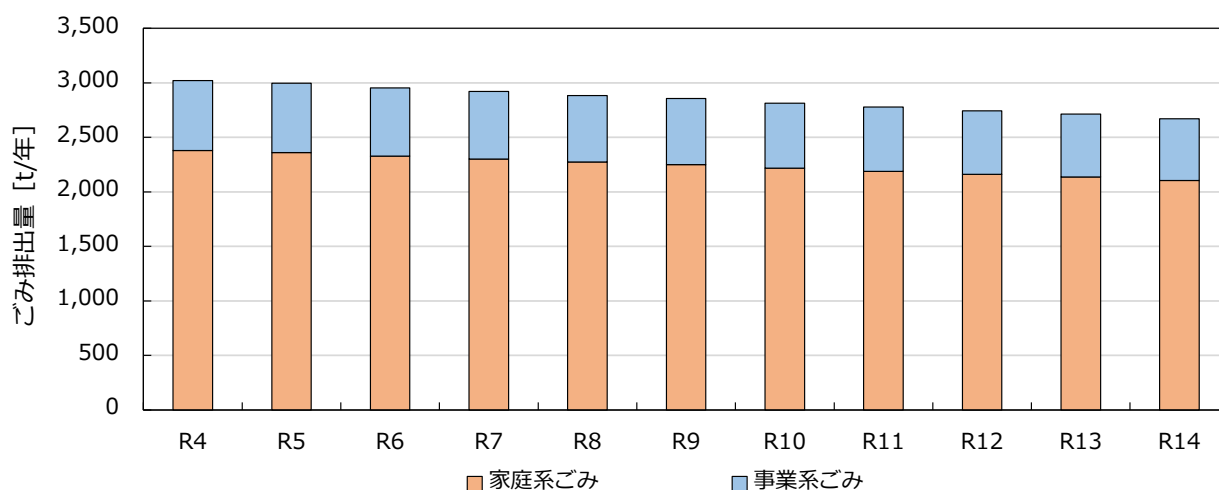


図 4-2 上富良野町のごみ排出量の推計

3) 中富良野町

令和4年度以降、目標年次までごみ総排出量原単位は730g/人・日で推移し、人口減少とともにごみ排出量も減少します。目標年次において、ごみ総排出量は1,165t/年と推計されます。

表 4-5 中富良野町のごみ排出量の推計

	単位	R4	R5	R6	R7	R8	R9	R10	R11	R12	R13	R14
行政区域内人口	人	4,814	4,784	4,755	4,725	4,673	4,622	4,570	4,519	4,467	4,420	4,372
家庭系ごみ排出量	t/年	1,112	1,108	1,099	1,092	1,080	1,071	1,056	1,044	1,032	1,024	1,010
事業系ごみ排出量	t/年	170	170	168	167	165	164	162	160	158	157	155
ごみ総排出量	t/年	1,282	1,278	1,267	1,259	1,245	1,235	1,218	1,204	1,190	1,181	1,165
ごみ総排出量原単位	g/人・日	730	730	730	730	730	730	730	730	730	730	730
区 分 別 内 訳	埋立ごみ	t/年	547	550	547	543	533	529	523	517	512	507
	衛生用品	t/年	102	102	101	99	99	99	97	96	95	94
	粗大ごみ	t/年	35	36	36	37	35	35	34	34	34	33
	生ごみ	t/年	290	287	284	281	279	277	272	269	266	261
	プラスチック類	t/年	50	49	49	48	48	47	47	46	46	45
	空き缶	t/年	26	25	25	25	25	24	24	24	24	23
	ペットボトル	t/年	22	21	20	20	20	20	20	19	19	19
	空きびん	t/年	48	47	45	44	44	44	43	43	42	41
	紙類	t/年	82	83	82	81	81	80	79	78	77	76
	鉄類	t/年	10	10	10	10	10	10	9	9	9	9
	枝・木	t/年	56	54	54	57	57	54	54	53	52	51
	乾電池・蛍光管・電球	t/年	2	2	2	2	2	2	2	2	2	2
	小型家電	t/年	10	10	10	10	10	10	9	9	9	9
	布類	t/年	2	2	2	2	2	2	2	2	2	2
計	t/年	1,282	1,278	1,267	1,259	1,245	1,235	1,218	1,204	1,190	1,181	1,165

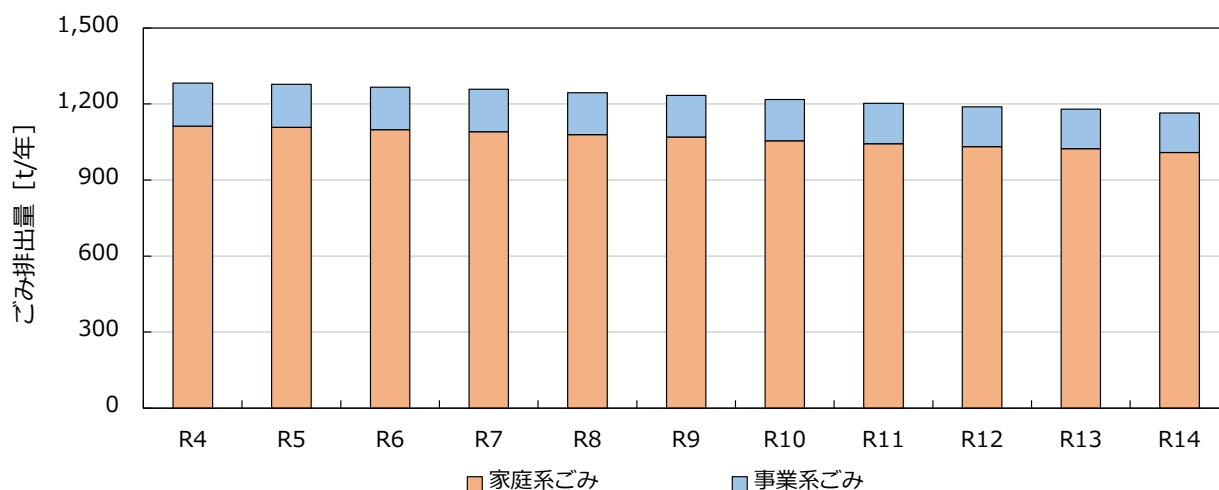


図 4-3 中富良野町のごみ排出量の推計

4) 南富良野町

令和4年度以降、目標年次までごみ総排出量原単位は919g/人・日で推移し、人口減少とともにごみ排出量も減少します。目標年次において、ごみ総排出量は684t/年と推計されます。

表 4-6 南富良野町のごみ排出量の推計

	単位	R4	R5	R6	R7	R8	R9	R10	R11	R12	R13	R14
行政区域内人口	人	2,330	2,304	2,277	2,250	2,219	2,188	2,158	2,127	2,096	2,067	2,039
家庭系ごみ排出量	t/年	693	687	677	669	660	653	642	633	624	617	607
事業系ごみ排出量	t/年	88	88	86	85	84	83	82	81	80	79	77
ごみ総排出量	t/年	781	775	763	754	744	736	724	714	704	696	684
ごみ総排出量原単位	g/人・日	919	919	919	919	919	919	919	919	919	919	919
区 分 別 内 訳	一般ごみ（可燃）	t/年	388	388	382	380	373	367	361	356	348	342
	一般ごみ（不燃）	t/年	64	63	61	61	61	60	59	58	57	56
	粗大ごみ	t/年	10	11	10	11	11	10	10	9	9	9
	生ごみ	t/年	183	179	176	171	169	170	167	164	162	157
	プラスチック	t/年	25	25	24	24	24	24	23	22	22	22
	空き缶	t/年	13	13	14	13	13	13	13	12	12	12
	ペットボトル	t/年	15	14	15	15	15	14	14	14	14	13
	空きびん	t/年	24	23	22	22	22	22	22	21	21	21
	古紙類	t/年	58	58	58	56	55	55	54	53	52	51
	乾電池・蛍光灯等	t/年	1	1	1	1	1	1	1	1	1	1
計	t/年	781	775	763	754	744	736	724	714	704	696	684

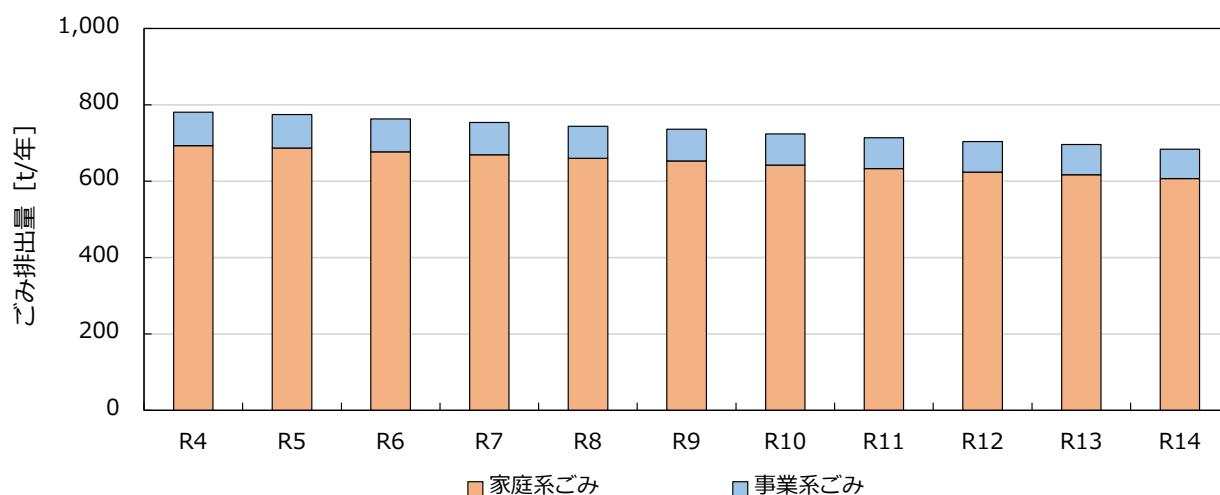


図 4-4 南富良野町のごみ排出量の推計

5) 占冠村

令和4年度以降、目標年次までごみ総排出量原単位は3,384g/人・日で推移し、人口減少とともにごみ排出量も減少します。目標年次において、ごみ総排出量は1,386t/年と推計されます。

表 4-7 占冠村のごみ排出量の推計

	単位	R4	R5	R6	R7	R8	R9	R10	R11	R12	R13	R14
行政区域内人口	人	1,179	1,173	1,168	1,162	1,156	1,151	1,145	1,140	1,134	1,128	1,122
家庭系ごみ排出量	t/年	617	615	611	608	605	604	599	596	593	592	587
事業系ごみ排出量	t/年	840	838	832	827	823	822	815	812	808	805	799
ごみ総排出量	t/年	1,457	1,453	1,443	1,435	1,428	1,426	1,414	1,408	1,401	1,397	1,386
ごみ総排出量原単位	g/人・日	3,384	3,384	3,384	3,384	3,384	3,384	3,384	3,384	3,384	3,384	3,384
区 分 別 内 訳	埋立ごみ	t/年	1,128	1,137	1,131	1,126	1,118	1,115	1,106	1,102	1,096	1,085
	生ごみ	t/年	208	191	184	181	183	186	183	181	180	178
	プラスチックごみ	t/年	38	42	44	45	43	42	43	43	43	42
	ペットボトル	t/年	15	15	15	14	15	15	15	15	15	14
	空き缶	t/年	7	6	6	6	6	6	6	6	6	6
	鉄類	t/年	2	2	2	2	2	2	2	2	2	2
	空きびん	t/年	45	45	45	45	45	44	44	44	44	44
	紙類	t/年	13	14	15	15	15	14	14	14	14	14
	紙パック	t/年	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0
	乾電池・蛍光灯等	t/年	1	1	1	1	1	1	1	1	1	1
計	t/年	1,457	1,453	1,443	1,435	1,428	1,426	1,414	1,408	1,401	1,397	1,386

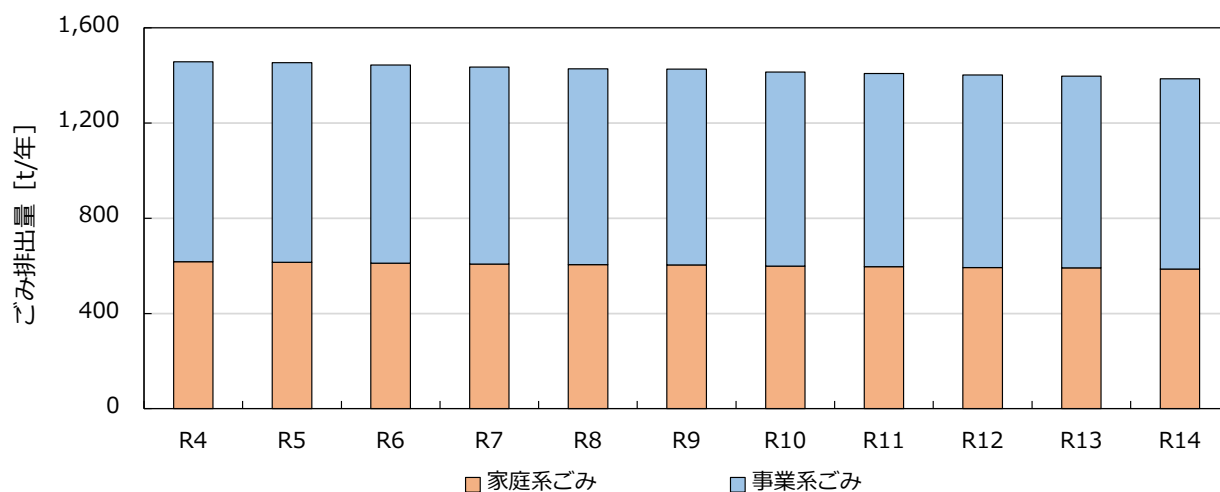


図 4-5 占冠村のごみ排出量の推計

6) 富良野生活圏全体

富良野生活圏全体のごみ排出量の推移は、以下のとおりと推計されます。

表 4-8 富良野生活圏全体のごみ排出量の見込み

	単位	R4	R5	R6	R7	R8	R9	R10	R11	R12	R13	R14
行政区域内人口	人	38,637	38,409	38,181	37,951	37,449	36,949	36,448	35,948	35,446	34,953	34,460
ごみ総排出量	t/年	13,158	13,119	13,009	12,931	12,769	12,642	12,444	12,284	12,120	11,991	11,798
富良野市	t/年	6,623	6,623	6,587	6,568	6,473	6,393	6,279	6,184	6,087	6,008	5,897
上富良野町	t/年	3,020	2,995	2,954	2,920	2,884	2,856	2,813	2,778	2,742	2,713	2,670
中富良野町	t/年	1,282	1,278	1,267	1,259	1,245	1,235	1,218	1,204	1,190	1,181	1,165
南富良野町	t/年	781	775	763	754	744	736	724	714	704	696	684
占冠村	t/年	1,457	1,453	1,443	1,435	1,428	1,426	1,414	1,408	1,401	1,397	1,386

※富良野市のごみ総排出量には一般ごみを含みます。

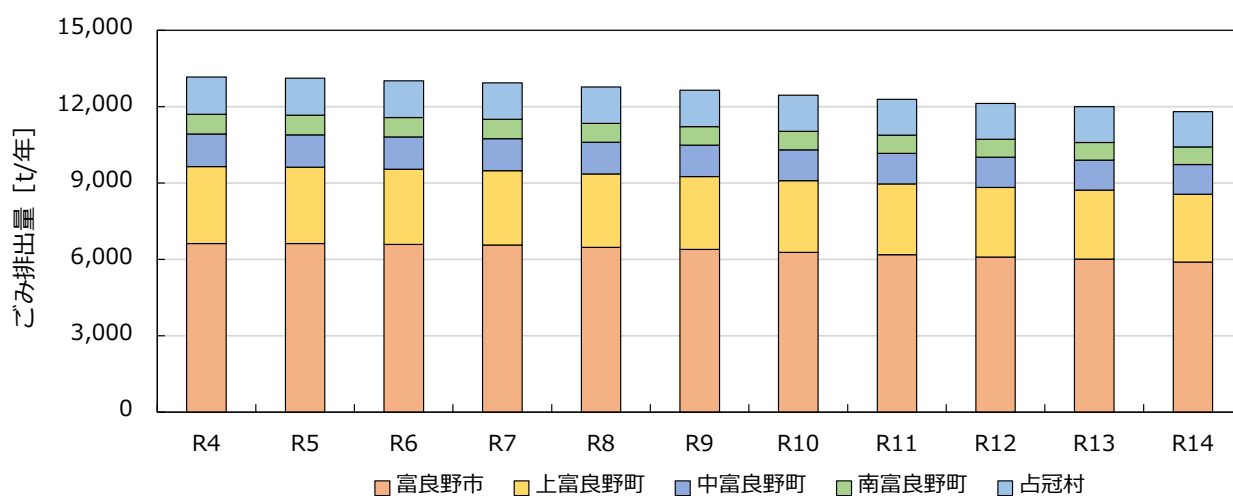


図 4-6 富良野生活圏全体のごみ排出量の推移

4.4 目標年次における関係市町村のごみ処理フロー

目標年次における関係市町村のごみ処理フローは下記のとおりです。

1) 富良野市

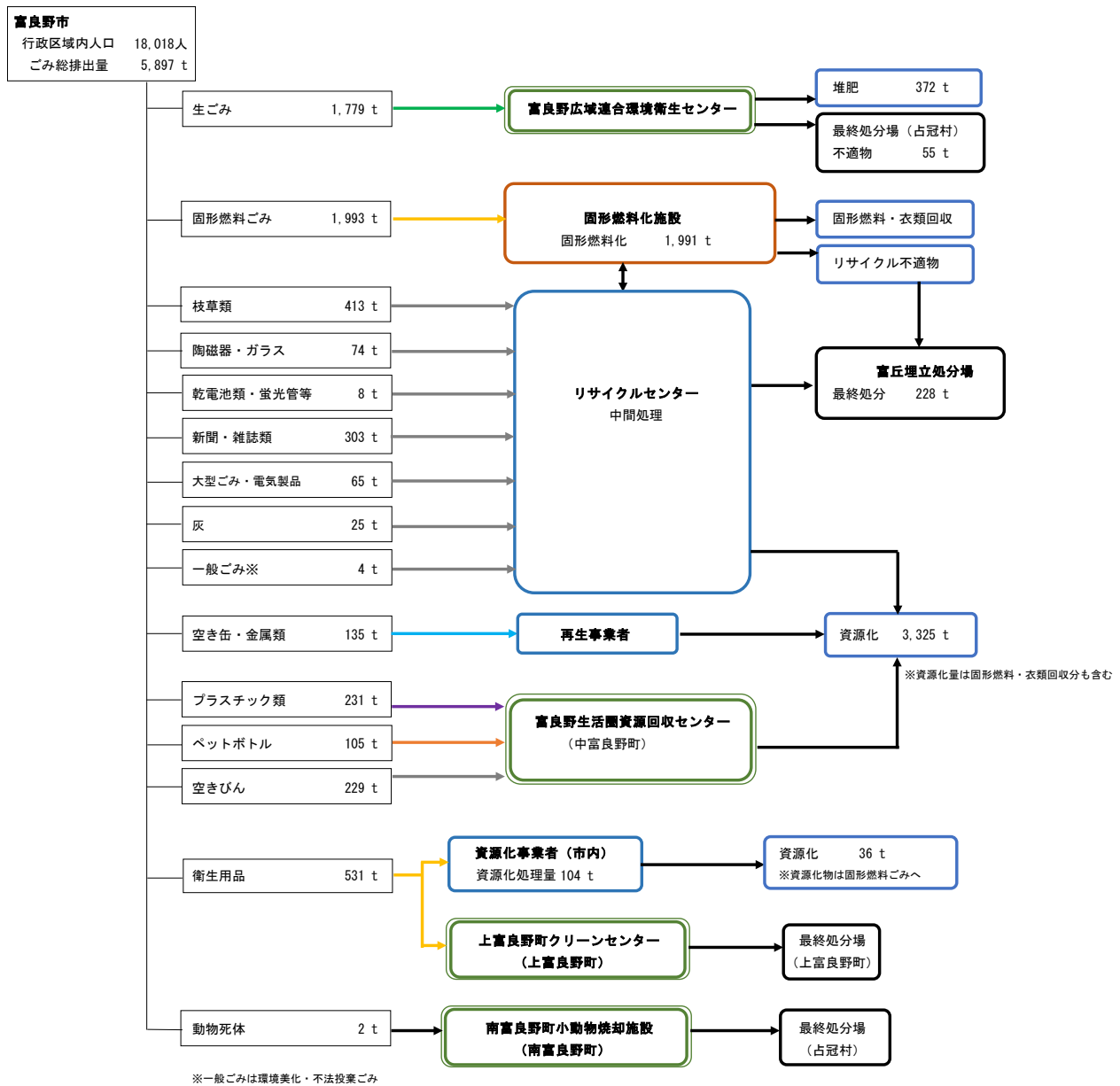


図 4-7 目標年次のごみ処理フロー（富良野市）

2) 上富良野町

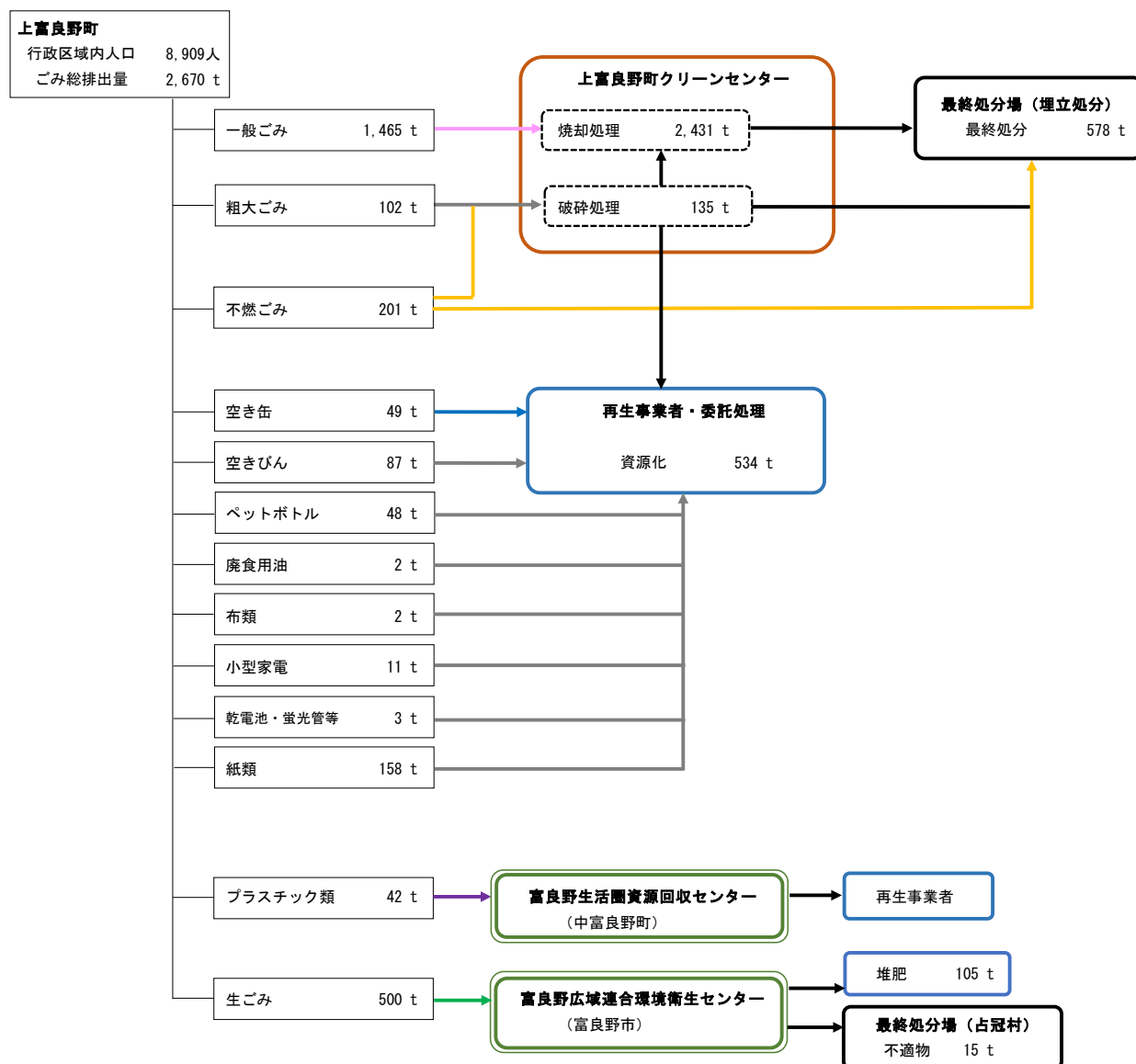


図 4-8 目標年次のごみ処理フロー（上富良野町）

3) 中富良野町

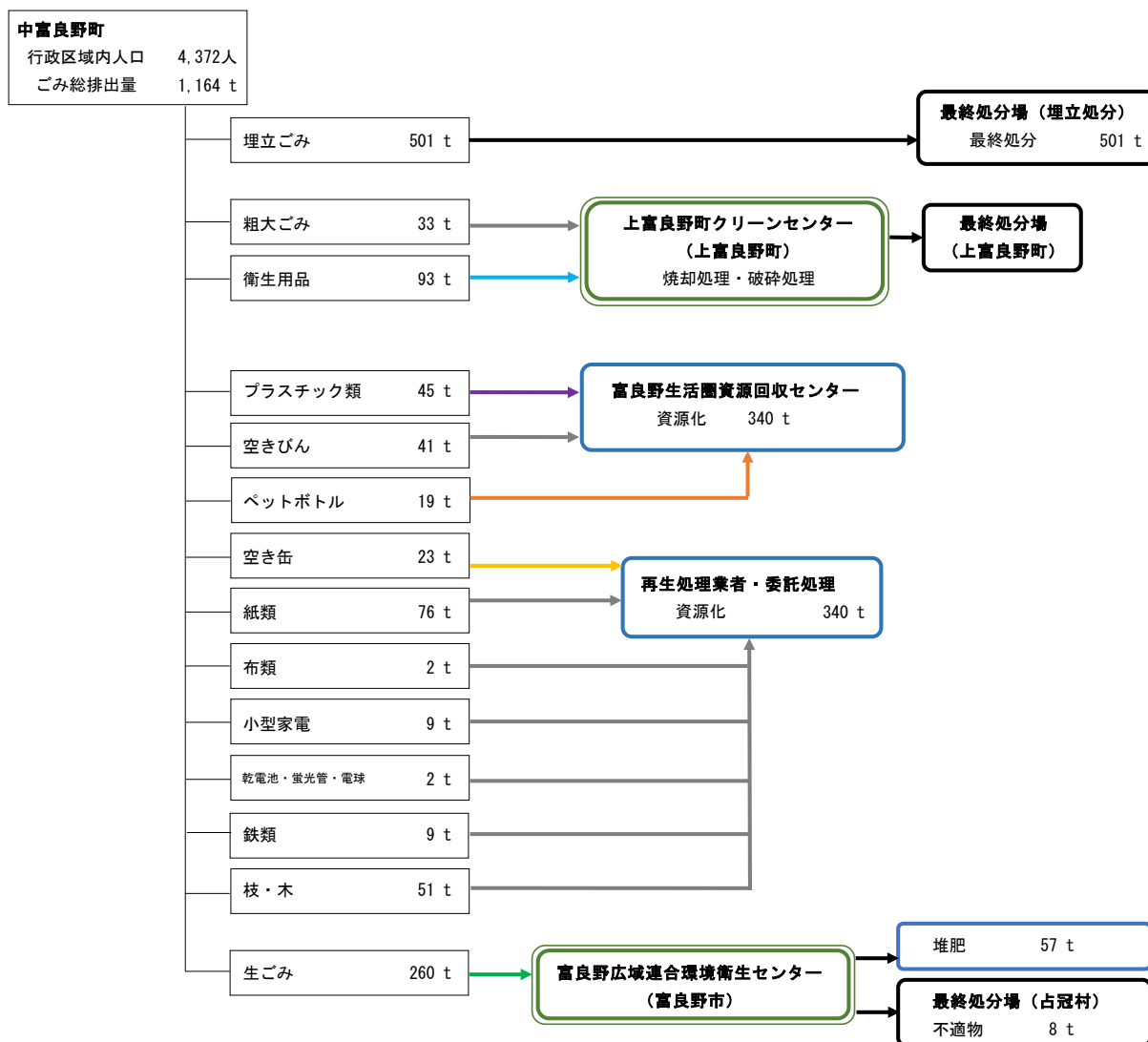


図 4-9 目標年次のごみ処理フロー（中富良野町）

4) 南富良野町

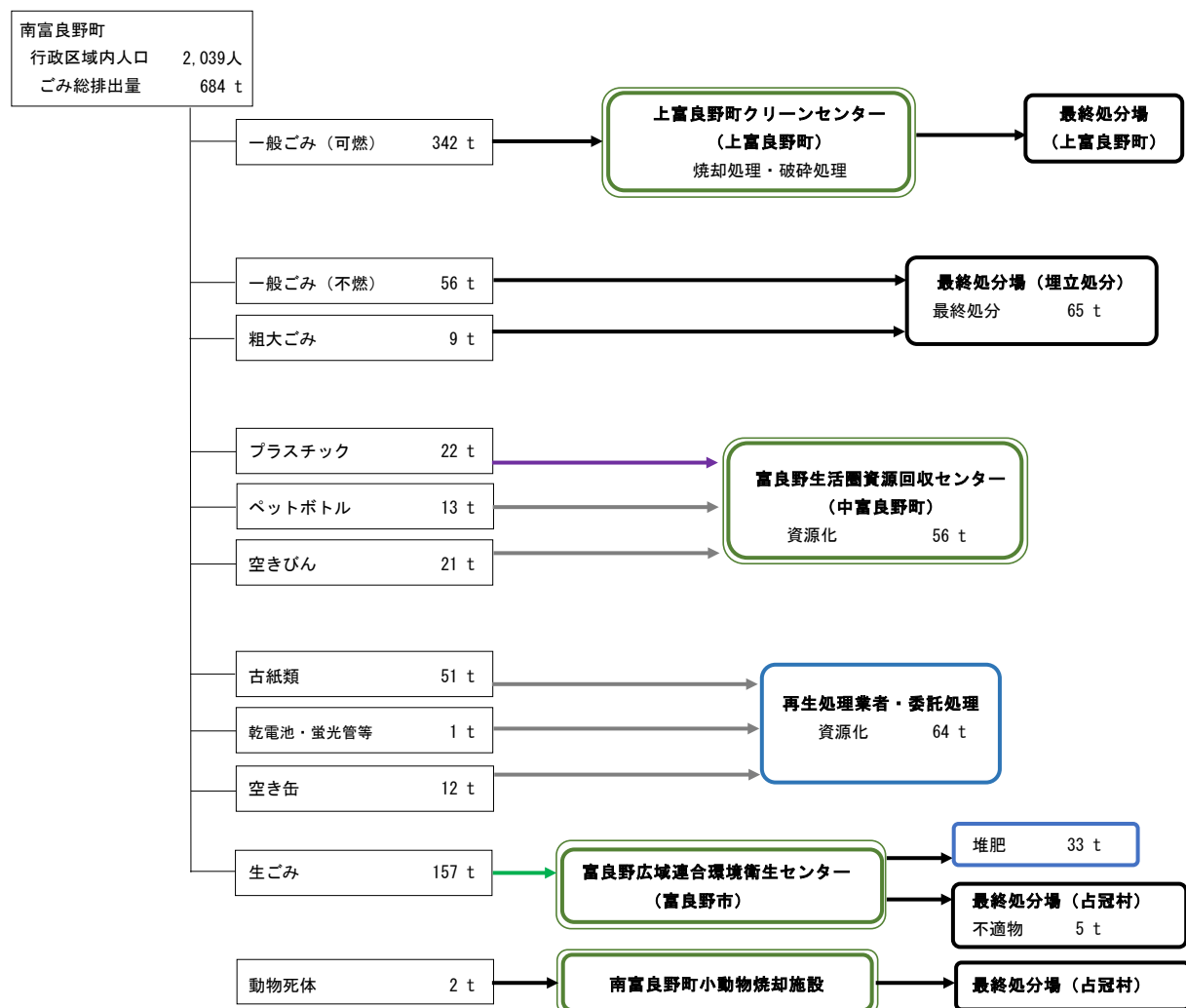


図 4-10 目標年次のごみ処理フロー（南富良野町）

5) 占冠村

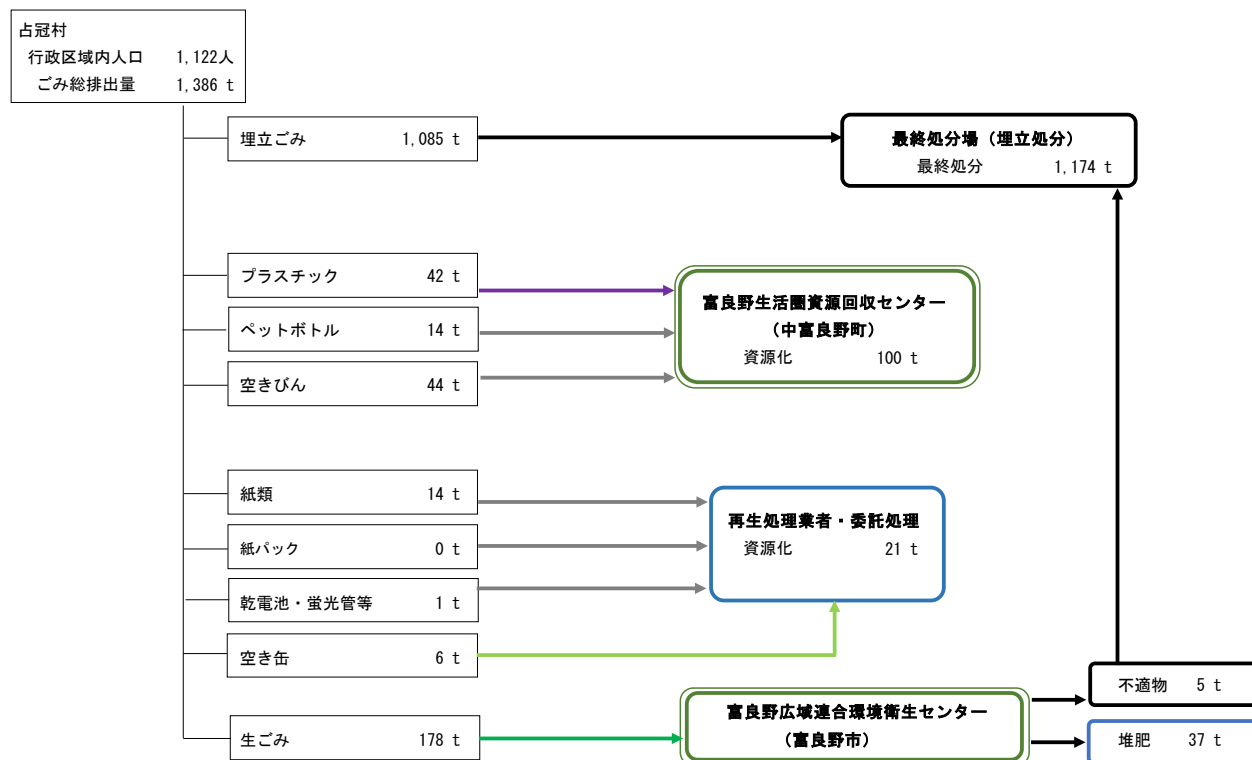


図 4-11 目標年次のごみ処理フロー（占冠村）

4.5 広域分担処理量の見込み

関係市町村のごみ排出量の推計値から、広域分担処理量の見込みは以下のとおりです。

1) 富良野広域連合環境衛生センター

富良野広域連合環境衛生センターにおける生ごみ処理量は以下のように推計されます。

処理量 = 関係市町村の生ごみの合計量

堆肥生成量 = 処理量 × 堆肥生成率^{※1}

不適物 = 処理量 × 搬出率^{※2}

※1：堆肥生成率は関係市町村ごとに過去3年間の実績の平均値で設定

(富良野市:21.6%、上富良野町:21.0%、中富良野町:21.0%、南富良野町:21.0%、占冠村:21.0%)

※2：搬出率は関係市町村ごとに過去3年間の実績の平均値で設定

(富良野市:3.1%、上富良野町:3.0%、中富良野町:3.0%、南富良野町:3.0%、占冠村:3.0%)

表 4-9 生ごみ処理量の見込み

単位：t/年

区分		R4	R5	R6	R7	R8	R9	R10	R11	R12	R13	R14
生ごみ	富良野市	1,997	1,997	1,987	1,981	1,952	1,928	1,894	1,865	1,836	1,812	1,779
	上富良野町	565	561	553	547	540	535	527	520	514	508	500
	中富良野町	290	287	284	281	279	277	272	269	266	264	261
	南富良野町	183	179	176	171	169	170	167	164	162	160	157
	占冠村	208	191	184	181	183	186	183	181	180	180	178
	計	3,243	3,215	3,184	3,161	3,123	3,096	3,043	2,999	2,958	2,924	2,875
堆肥生成量	富良野市	418	418	416	415	408	403	396	390	384	379	372
	上富良野町	119	118	116	115	113	112	111	109	108	107	105
	中富良野町	64	63	62	62	61	61	60	59	59	58	57
	南富良野町	38	38	37	36	35	36	35	34	34	34	33
	占冠村	44	40	39	38	38	39	38	38	38	38	37
	計	683	677	670	666	655	651	640	630	623	616	604
衛生センター 不適物	富良野市	62	62	62	61	61	60	59	58	57	56	55
	上富良野町	17	17	17	16	16	16	16	16	15	15	15
	中富良野町	9	9	9	8	8	8	8	8	8	8	8
	南富良野町	5	5	5	5	5	5	5	5	5	5	5
	占冠村	6	6	6	5	5	6	5	5	5	5	5
	計	99	99	99	95	95	95	93	92	90	89	88

2) 上富良野町クリーンセンター

上富良野町クリーンセンターにおける焼却処理量と破碎処理量は以下のように推計されます。

焼却処理量 = 上富良野町の一般ごみ + 破碎可燃物^{※1} + 広域分担処理量^{※2}

※1：破碎可燃物＝破碎処理量×76.4%（残渣率^{※3}）

※2：広域分担処理量＝衛生用品（富良野市、中富良野町）＋一般ごみ（南富良野町）

※3：残渣率は、5年間の実績の平均値で設定

破碎処理量 = 上富良野町の粗大ごみ + 中富良野町の粗大ごみ

表 4-10 焼却処理量と破碎処理量の見込み

単位：t/年

区分			R4	R5	R6	R7	R8	R9	R10	R11	R12	R13	R14
焼却処理	衛生用品	富良野市	481	481	478	477	469	463	455	448	441	436	427
	衛生用品	中富良野町	102	102	101	99	99	98	97	96	95	94	93
	可燃ごみ	南富良野町	388	388	382	380	373	367	361	356	354	348	342
	(広域分)	計	971	971	961	956	941	928	913	900	890	878	862
	焼却処理量	計	2,745	2,732	2,695	2,673	2,637	2,606	2,566	2,534	2,502	2,473	2,431
破碎処理	粗大ごみ	中富良野町	35	36	36	37	35	35	35	34	34	34	33
	破碎処理量	計	150	150	148	148	145	144	142	140	139	137	135

3) 富良野生活圏資源回収センター

富良野生活圏資源回収センターにおける資源化処理量は以下のように推計されます。

プラスチック類 = 関係市町村のプラスチック類の合計量

ペットボトル = 上富良野町を除く市町村のペットボトルの合計量

空きびん = 上富良野町を除く市町村の空きびんの合計量

表 4-11 資源化処理量の見込み

単位：t/年

区分		R4	R5	R6	R7	R8	R9	R10	R11	R12	R13	R14
プラスチック類	富良野市	258	258	257	256	253	249	245	242	237	235	231
	上富良野町	48	47	47	46	45	45	44	44	43	43	42
	中富良野町	50	49	49	48	48	48	47	47	46	46	45
	南富良野町	25	25	24	24	24	24	23	23	22	22	22
	占冠村	38	42	44	45	43	42	43	43	43	43	42
	計	419	421	421	419	413	408	402	399	391	389	382
ペットボトル	富良野市	117	117	116	116	115	113	111	109	108	106	105
	中富良野町	22	21	20	20	20	20	20	20	19	19	19
	南富良野町	15	14	15	15	15	14	14	14	14	14	13
	占冠村	15	15	15	14	15	15	15	15	15	15	14
	計	169	167	166	165	165	162	160	158	156	154	151
空きびん	富良野市	258	258	256	256	252	249	244	240	237	234	229
	中富良野町	48	47	45	44	44	44	43	43	42	42	41
	南富良野町	24	23	22	22	22	22	22	22	21	21	21
	占冠村	45	45	45	45	45	45	44	44	44	44	44
	計	375	373	368	367	363	360	353	349	344	341	335

4) 南富良野町小動物焼却施設

南富良野町小動物焼却施設における焼却処理量は以下のように推計されます。

焼却処理量 = 関係市町村からの動物死体推計量の合計（上富良野町以外）

※富良野市以外の市町村における動物死体の推計量は過去5年間の実績の平均値で設定

焼却残渣 = 焼却処理量 × 10.0%（残渣率※）

※残渣率は過去5年間の実績の平均値で設定

表 4-12 動物死体の焼却処理量の見込み

単位：t/年

区分		R4	R5	R6	R7	R8	R9	R10	R11	R12	R13	R14
動物死体	富良野市	2	2	2	2	2	2	2	2	2	2	2
	中富良野町	1	1	1	1	1	1	1	1	1	1	1
	南富良野町	2	2	2	2	2	2	2	2	2	2	2
	占冠村	2	2	2	2	2	2	2	2	2	2	2
	計	7	7	7	7	7	7	7	7	7	7	7
焼却残渣		1	1	1	1	1	1	1	1	1	1	1

5) 占冠村一般廃棄物最終処分場

占冠村一般廃棄物最終処分場における最終処分量は以下のように推計されます。

最終処分量 = 占冠村の埋立ごみ + 広域分担処理量

広域分担処理量 = 衛生センターからの不適物 + 南富良野町小動物焼却施設の焼却残渣

表 4-13 最終処分量の見込み

単位：t/年

区分	R4	R5	R6	R7	R8	R9	R10	R11	R12	R13	R14
衛生センター不適物	99	99	98	95	95	95	93	92	90	89	88
動物死体焼却灰	1	1	1	1	1	1	1	1	1	1	1
最終処分量(広域分)	100	100	99	96	96	96	94	93	91	90	89
埋立ごみ 占冠村	1,128	1,137	1,131	1,126	1,118	1,115	1,106	1,102	1,096	1,092	1,085
最終処分量合計	1,228	1,237	1,230	1,222	1,214	1,211	1,200	1,195	1,187	1,182	1,174

5 広域分担処理計画

5.1 基本方針

本圏域の豊かな自然環境を守り、環境負荷を低減した持続可能な社会を目指すため、関係市町村が連携・協力して次の基本方針のもと廃棄物循環型社会の構築を図ります。

(1) 各市町村との連携によるごみの排出抑制と資源化の推進

関係市町村から排出されるごみ量を可能な限り削減するため、ごみの減量化や資源化の広域的な啓発活動や関係市町村相互の協力・連携を推進します。

関係市町村は、国や北海道の方針を踏まえ、住民及び事業者に対する意識啓発や各種施策の実施により、ごみ減量化・資源化の取組を推進します。

(2) ごみ処理量と最終処分量の削減

ごみの排出抑制と資源化を推進することで、本圏域におけるごみ処理量と最終処分量の削減を図ります。

(3) 安定的・効率的な広域分担処理体制の計画・整備

関係市町村と連携しながら、各市町村が所有しているごみ処理施設の効率的な運営を図り、各市町村の負担軽減に努めます。

また、ごみ処理関連施設の共同整備と各市町村が所有している施設の共同利用により広域処理を推進します。広域処理の推進にあたり、関係市町村のごみ分別方法の統一などを検討・協議します。

(4) 再生可能エネルギーの活用

本圏域では、全ての関係市町村が「2050年ゼロカーボンシティ」を表明しており、ごみ処理においては焼却ごみの減量や新たな資源化処理の調査・検討を行うとともに、ごみ処理施設の電力に関しても太陽光・バイオマス発電などの再生可能エネルギー導入に向けた動きを活発化します。

5.2 各種施策の内容

1) ごみ排出抑制と資源化の推進

(1) 衛生用品の資源化処理の推進

上富良野町クリーンセンターにて広域分担処理を行っている衛生用品について、関係市町村において分別区分の統一化を図り、処理することを検討します。富良野市では、令和4年度に紙おむつの固形燃料化処理の実証試験を行っており、実証試験の結果を検証しながら紙おむつの資源化に向けて検討を進めていきます。

(2) 容器包装以外のプラスチックの資源化の推進

新法に基づき、各市町村で独自処理されている容器包装以外のプラスチックの資源化に向けて取り組みます。

2) ごみ焼却量と最終処分量の削減

(1) ごみ焼却量の削減

上富良野町クリーンセンターで広域分担処理を行っている衛生用品は、含水率が高く焼却ごみの発熱量の低下を招き、焼却処理に係る維持管理経費と焼却設備負荷の増加の原因となっています。衛生用品の資源化を推進することにより、ごみ焼却量の削減に努めます。

(2) 最終処分量の削減

関係市町村の最終処分場は、残余容量が少なくなっており、本計画の計画期間中に埋立満了となることが想定されています。各市町村においては次期最終処分場の整備を進めていくと同時に、現最終処分場を長く使用することが出来るよう、最終処分量の削減に努めます。

最終処分量の削減には、現在埋立られている可燃ごみを上富良野町クリーンセンターで焼却処理することも有効であることから、関係市町村で連携・協議しながら、検討を進めます。なお、富良野市における可燃ごみは、引き続き固形燃料化を継続します。

3) 安定的・効率的な広域分担処理体制の計画・整備

(1) ごみ処理施設の適正な維持管理

関係市町村が所有するごみ処理施設を長く安定して使用できるよう計画的な設備補修を行い、適正な維持管理により安定的なごみ処理と経費削減に努めます。また、関係市町村でごみ処理施設の整備状況や整備計画を共有することで、効率的な広域処理体制の構築と各市町村のごみ処理施設の整備費用の平準化を図ります。

(2) 関係市町村のごみ処理施設の共同利用

富良野市の固形燃料化施設の共同利用を検討するなど、本圏域における効率的なごみ処理を推進します。

(3) ごみの分別品目の統一化及び変更

関係市町村のごみの分別区分の統一化と変更を検討します。あわせて、本圏域におけるごみの広域処理体制の構築を図ります。

5.3 ごみ処理施設・最終処分場の状況と今後の展望

関係市町村のごみ処理施設等の状況と今後の展望は、次のとおりです。

市町村名	施設名	使用年数や埋立満了期間等	将来の施設展望
富良野市	富良野市リサイクルセンター（固形燃料化施設）	固形燃料化施設は富良野市のごみ処理システムの柱であることから安定処理を維持する必要がある。供用開始から 25 年が経過する令和 7 年頃に施設更新を検討する。	施設更新にあたっては、関係町村の受入を検討する。
	富良野市富丘一般廃棄物最終処分場	令和 10 年度で満了となる予定。	次期最終処分場は、現処分場の敷地内に整備予定。
	衛生用品ごみ資源化施設	終了年度等の予定なし	現状維持
	衛生用品ごみ資源化実証施設	新規取組	実証試験の動向を見ながら事業化の検討を進める。
上富良野町	上富良野町クリーンセンター	最終処分場と合わせて令和 11 年度まで延命化を図る。	広域処理を継続し、広域での施設整備を検討する。
	上富良野町クリーンセンター（最終処分場）	令和 11 年度で満了となる予定。	次期最終処分場の整備を進める。
中富良野町	富良野生活圏資源回収センター	令和 3 年度に大規模改修を行い延命化を図っている。	次期最終処分場の整備に伴い、施設移転も併せて検討する。
	中富良野町一般廃棄物最終処分場	令和 10 年度で満了となる予定。	次期最終処分場の整備を進める。
南富良野町	南富良野町小動物焼却施設	定期的な整備により、長期間の使用が可能。	稼働より 19 年が経過し、今後焼却炉の改修が見込まれる。
	南富良野町一般廃棄物最終処分場	令和 10 年度で満了となる予定。	次期最終処分場の整備を進める。
占冠村	占冠村一般廃棄物最終処分場	令和 15 年度で満了となる予定。	トラックスケール設置により、埋立期間が前後する可能性あり。
富良野広域連合	富良野広域連合環境衛生センター	供用開始から 19 年が経過し、維持管理費や改築費の増大が予想される。	長寿命化総合計画を作成し耐用年数の延伸を図る。

5.4 計画スケジュール

